

中学生のメッセージ2022

第44回 少年の主張 三重県大会



デザイン画 最優秀賞：「思い出とともに」
紀北町立紀北中学校 2年 浅野 薩貴さん

 公益財団法人三重こどもわかもの育成財団
紀北地区中学生のメッセージ実行委員会
独立行政法人国立青少年教育振興機構

はじめに

中学生のメッセージ(少年の主張三重県大会)は、昭和54年の国際児童年を契機に始められました。中学生の皆さんが日常生活の中で日頃考え、感じていることなどを広く社会に発表する場として回を重ね、本年度で44回目です。

さて、昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、残念ながら発表会を中止とし、書面審査の開催でした。今年度は感染症防止対策に留意しながら発表会を開催しました。新型コロナウイルスの影響により、中学生の運営協力と実践発表が含まれた本来の形での開催は3年ぶりとなりました。

応募者数としては、県内55の中学校から6,860点にのぼる作文が寄せられました。これもひとえに各中学校や青少年育成市町民会議の皆さまの多大なご協力をいただいた賜物と感謝いたします。たくさんの中学生の皆さんに関心を持っていただきましたこと、主催者として、大変嬉しく思います。

今回寄せられた発表の一つ一つは、中学生の皆さんそれぞれの考えや感じたことを表したものです。主張する内容や表現もそれぞれ異なります。本来であれば、たくさんの中学生の皆さんに発表していただくのが本筋ではありますが、今回は、その代表として14名の方々に発表していただきました。

発表者の皆さんは発表することで自分自身を見つめ直すきっかけとなり、自信を深め、今後につながる機会になったのではと感じています。

一方、私たち大人にとっては、中学生の皆さんのみずみずしい感性や真っ直ぐな気持ちを受けて、あらためて家庭や地域社会で子どもを支え、応援することの大切さを感じ、決意をあらたにする機会となりました。

また、司会、受付、案内、表彰アシスタントの運営を地元紀北地区の中学生が主体となって行いました。明るい笑顔と優しい気持ちで来場された皆さまをお迎えし、会場の皆さまからもお褒めの言葉をいただきました。さらに、地元紀北地区の中学生が太鼓演奏、ダンス発表、吹奏楽演奏の実践発表を行いました。

このように子どももこの大会を通じて、中学生の皆さんの活動を紹介するなど、中学生の思いや考えなどを社会に向けて幅広く伝える努力を重ねていきたいと考えています。

本報告集は、県大会受賞者14名の主張と全国大会内閣総理大臣賞受賞者の主張を収録したものです。多くの方々にお読みいただき、中学生の思いや考えに関心を持っていただければ幸いです。

最後になりましたが、本大会の開催にあたり、実行委員会でご尽力いただきました紀北地区青少年育成市町民会議の皆さまを始め、多くの皆さまにご支援・ご協力をいただきました。あらためて厚くお礼を申し上げます。

今後も、「中学生のメッセージ」が、中学生の皆さんにとって輝ける思い出となるよう、地域の皆さまと共に開催していきたいと考えています。

どうぞ今後とも皆さまのご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

令和5年1月

公益財団法人三重こどもわかもの育成財団

理事長 福田 圭司

中学生のメッセージ 2022

(令和4年8月27日 尾鷲市民文化会館)



発表者と審査委員の皆さん



運営協力していただいた中学生の皆さん

目次

はじめに

◆大会発表作品

最優秀賞

大切な私のふるさと 尾鷲市立尾鷲中学校 3年 北村 遥香 …… 1

優秀賞

同性じゃダメなの? 皇學館中学校 2年 伊藤 直子 …… 3

私の家族 御浜町立御浜中学校 3年 上村 心音 …… 5

楽しく利用するために 尾鷲市立尾鷲中学校 3年 楠 依里香 …… 7

優良賞

「日本の現在 世界の未来」 津市立朝陽中学校 3年 井上 絢斗 …… 9

一三四〇円の失敗 四日市市立朝明中学校 2年 井上 響貴 …… 11

助け合い セントヨゼフ女子学園中学校 3年 新谷 春楽 …… 13

「出会いと交流」 セントヨゼフ女子学園中学校 3年 曾我 果子 …… 15

障がいという個性と生きる文化 紀北町立潮南中学校 3年 谷口 みこ …… 17

自分を、人を認める 鈴鹿市立白子中学校 3年 辻 舞衣 …… 19

継ぐ、繋ぐ。 紀北町立紀北中学校 3年 寺浦日花里 …… 21

差別と区別 名張市立桔梗が丘中学校 3年 西川 心菜 …… 23

地域の中で人とつながるために自分ができること

伊賀市立霊峰中学校 1年 平地 明奈 …… 25

感謝の気持ち いなべ市立藤原中学校 3年 森上 那柚 …… 27

◆審査委員の講評 …… 29

◆大会概要

1 応募の状況 …… 35

2 地域優秀賞受賞者一覧 …… 37

3 学校奨励賞受賞校一覧 …… 39

4 デザイン画受賞者一覧 …… 40

◆大会メモリアル …… 41

◆中学生への応援メッセージ …… 45

◆協賛企業・団体紹介 …… 47

◆参考資料

1 中学生のメッセージ2022 (第44回少年の主張三重県大会) 作文募集要項 …… 49

2 令和4年度内閣総理大臣賞の紹介 [第44回少年の主張全国大会～わたしの主張2022～] …… 53

※大会発表者の作品は、誤字・脱字以外は原文のまま掲載しました。



最優秀賞 大切な私のふるさと

尾鷲市立尾鷲中学校 3年

北村 遥香

「尾鷲って田舎でなんもないよな。」

友達と一緒にいる時によく口に出す言葉だ。コンビニやスーパーの周囲には人気がある。それと比べ、昔は栄えていた商店街などはどんどんお店もなくなり、人通りも少なくなっている。こんなことを考えていると、少子高齢化や過疎化といった授業で学んだことが私達にも関係あることだと実感する。バスの本数も少なく、電車も通っていない。働ける場所も少なくなっていると聞いたことがある。私は「将来は尾鷲を出て都会で暮らして働くのかな。」と何気なく考えるようになっていた。

そんなことを考えていると、東京の大学を卒業した従姉妹が尾鷲に戻ってきた。東京では就職せず、尾鷲に戻ってきたのだ。このことを知ったとき、私は不思議で仕方がなかった。なぜ都会でものがなんでも揃って、楽しいことがいっぱい詰まっている便利な東京から、不便な田舎の尾鷲に戻ってきたのか分からなかったからだ。私は、従姉妹に聞いてみた。すると、こんな言葉が返ってきた。「んー、一度尾鷲離れてみると尾鷲のええとこに気づいたからかなあ」と。東京も楽しいことがいっぱいある。だけど、自然の豊かさや魚のおいしさ、人の優しさ、今まで当たり前だと思っていたことが当たり前ではなかった。とも言っていた。その時、私は名古屋に行った時のことを思い出した。人とぶつかってしまい、「ごめんなさい」と私は言った。だが、相手は無言で通り過ぎていった。こんなこと、尾鷲では経験したことがなかった。名古屋は明るすぎて、星空がくすんで見えた。私は、従姉妹が言った言葉の意味が少し分かった気がした。

ある日、部活の帰り道、友達とゆっくり歩いていた。すると頭上の広々とした空には、とても綺麗な夕日が赤く私を照らしていた。澄んだ明るい春の空には、一番星が輝いたのを覚えている。

その日の夜、私の家の食卓に並んだブリのお刺身とあおさのお味噌汁がとてもおいしかった。脂が沢山のっているブリはとてもツヤツヤしていて、おしょうゆにも沢山の脂が浮かんでいた。静かにおちゃわんを手にとり、はしを口へと運んだ。とろとろですごくおどろいた。魚を食べる時、あまり使わない言葉かもしれないが本当にとろとろだった。あおさのお味噌汁は、飲んだ瞬間磯の香りが広がってきて、あおさってこんなにおいしいものだったんだと改めて感じた。その日食べたブリとあおさが尾鷲でとれたものだど知り、とてもおどろいた。こんなにおいしいものがあつたことを知らずにいた自分に対してがっかりした。私のふるさとには、豊かな自然とその恵み、そして優しい人が沢山いるという素晴らしい宝があることに気がついた。改めてふるさとの良さを実

★ 部活動や学校外活動 陸上部・生徒会

★ 好きな科目 数学

★ 好きなことや好きなもの 読書・映画鑑賞

★ 将来の夢 公務員

感じ、尾鷲っていいなと思えるようになった。

尾鷲という小さな街に、なにもないわけじゃなかった。尾鷲を出て、都会で暮らして働くという考えから、一度都会へ出てもう一度尾鷲へ戻ってくる。Uターンするのもいいかもしれないと思った。

「尾鷲って田舎でなんにもないよな。」と言うばかりで、行動しなければなにも変わらない。

では、私達が住むこの街の未来をどう構築していけばいいのだろうか。私は自然と食文化、地域行事を大切に守ることが必要だと思う。田舎だからこそできる事を、もっと活用することが大切だ。この事を思っているのは私だけではないだろう。市役所や商工会議所で働いている人達、尾鷲に住んでいる人も思っていると考え。だからこそ、港祭りやヤーヤ祭り、イタダキ市など様々なイベントが行われているのだ。他にもIターン、Uターンしてくださった方々が、昔の家屋を改築し、移住、活用してくださった。尾鷲をもっとよりよくしようとしてくれている人がいる証拠だ。私も、尾鷲をもっといい街にしていきたい。

私は今回、ふるさとの良さについて再確認し、将来はこの街で暮らしていきたいと改めて思えるようになった。もし一度都会へ出ることがあったとしても、必ず帰りたい。なぜなら尾鷲というふるさとが大好きだからだ。





優秀賞 同性じゃダメなの？

皇學館中学校 2年

伊藤 直子

僕が今、日本で一番気になっていることは同性婚や同性愛を認める人がなぜこんなにも少なく、批判ばかりされなくてはいけないのかということです。

僕は恋愛的に好きになる対象が人とは少し違い同性の女の子を好きになります。なので将来もし結婚をするなら同性の方としたいと思います。

ですが、それには問題があります。それが、同性婚や同性愛を認めない人が多く結婚もしにくいということです。どうして同性ではいけないのか、僕は不思議に思います。同性婚や同性愛をしない、いわゆる普通の人だったとしても特別な理由がない限り、自由に恋をして好きな人と結婚をしています。なのに、同性では批判ばかり。この差はどうして生まれるのでしょうか。

みなさんは『LGBTQ』というものを知っていますか。レズ・ゲイ・バイセクシャル・トランスジェンダー・クエスチョニング。この様に一つの単語として簡単に分けられています。でも僕は分ける必要は無いと思いますし、逆に本人達からしたら差別されている様に感じます。理由を簡単に言います。

LGBTQと分けられると、自分達とは違うということがはっきりしてしまい、悪口を言われることも増えてしまうからです。その悪口の中には、気持ち悪いや変人と言われることもあります。ですが、そんな事を言われる度に、なりたくてなった訳じゃない。目立ちたくて言っている訳じゃない。なんでそんなことを言われなくてはならないのか。そんな考えが頭をよぎります。それに、LGBTQと分けられると別の生き物として扱われているようになり、他の人達が敏感になって差別的な言葉を言ってしまうかもしれません。一つの単語として分ける意味がどこにあったのか、僕には理解できません。

僕は一番嫌いな人達があります。それは、LGBTQと分け、差別的なことをしているのに『差別はやめましょう』と、とても簡単に言ってしまう人達です。傷つけるつもりは無いと言う人がほとんどでしょう。でもそれを差別と感じる人もいます。ならどうしたら良いと思うかもしれません。それに答えるなら、『放っておいて欲しい』と答えます。何にも分けず、同じ人間として接して欲しいからです。

このような心の性と体の性との問題は、人が思っている以上に簡単では無く、楽なことではありません。子供の頃などは特に簡単ではありません。手術にお金をかけることはもちろん出来ませんし、理解のある親なら良いですが、男子は男子、女子は女子という考えの人なら、女装や男装

★ 部活動や学校外活動	校友会本部役員
★ 好きな科目	体育・音楽・美術・技術
★ 好きなことや好きなもの	観劇・声楽・踊り・手芸
★ 将来の夢	エンターテイナー

をすることさえ許されません。学校ではネタにされて、からかわれ、いじめとなってしまうたり、誤解を招いてしまったりすることがあります。環境が良くても良くなくても、心に残る何かはとても苦しく辛いです。そこからさらに辛いことをされて喜ぶ人はいますか。どんな人でも嫌なものは嫌です。

それでも自分の意思を持って、堂々と生きている人もいます。どんなに辛いことを言われても、明るく楽しそうに生きています。僕は嫌なことを言われたりしたらすぐ気にしてしまい、考えなくても良いことを考え込んでしまうことがあります。自分もいつか、堂々としていられるようになりたいです。

そして、自分に似た問題で困っている人達は世界にもっとたくさんいます。僕はそんな人達に手を差しのべ、差別のない世界になるよう、一人一人が意識して行動して認めることが大事だと思います。それが出来たら、どんな人も幸せになれると僕は信じています。なので、僕は自分の力で世界を変えられるよう行動していきたいです。





優秀賞 私の家族

御浜町立御浜中学校 3年

上村 心音

私の家は母子家庭だ。みなさんは「母子家庭」あるいは、「父子家庭」と聞いてどのようなことを想像するのだろう。私は母子家庭になってすぐの頃、よく一緒に遊んでいた子に今の自分の家について話した。言う前は言ったことにより距離をおかれぬか、陰口のようなことを言われぬかとても不安だった。そんなことを言う子じゃないと分かっているにもかかわらず怖かった。しかし言ってみると「がんばったね。」と想像もしていなかった言葉が返ってきた。彼女は私がこれまで言っていたつらかったことや逆にうれしかったことから、がんばったのだろうと考えてくれていたのだ。その一言で私はとても救われた。クラスで名前が変わると発表したときはたくさんイジられ、これは悪いことだと自分で自分の家族を侮辱していた。だから、彼女の一言がなければ私は今も自分たちのことを侮辱し続けていたかもしれない。もし昔の私のように「母子家庭」や、「父子家庭」を恥ずかしいと思っている人がいたら、私たちの家庭には、学校では得られない知識や楽しさがあることを知ってもらいたいと思う。

「母子・父子家庭」とは母親と子もしくは父親と子のような親が一人と子どもの家庭だ。ここまでで勘違いしてほしくないのは、「親が一人だと愛情をもらえない」というようなマイナスな印象をもつことだ。私の家では母が夕方まで仕事でいないことが多い。しかし、毎日みんなでテレビを観てたくさん笑い、時には寝落ちするまで話してとても明るく楽しい時間を過ごしている。また、今日あった出来事や悩みなどを真面目に話し合い、お互いに考えを言い合える場もある。この光景は一人親など関係なくどの家庭でもあると思う。私たちは協力して行う仕事は少し多いだけで、他の家庭との差はほとんどない。ただ、家族の中で大人が一人しかいないということから、長時間働いたり、雨の日に私たちを車で送迎したりしなければならないなど、生活面での負担は大きい。だから子どもたちで支え合い、家事を分担して、少しでも親を楽にしていけることが大切だ。この家庭になったばかりの頃は、兄弟で命令し合い毎日ケンカをしていた。しかし、それが母の負担になっていると気づき、私たちは常に声を掛け合うようになった。弟に洗い物をお願いする時は「私は洗濯畳むから、洗い物しといて。」と役割分担をしている。休日で母の仕事が入っている日には、このような小さな手伝いをして自分達なりに考えて行動するようになった。そして母と一緒に過ごす休日は祖母の家でゆったりするなどとても充実している。

中学校に入ると同じような家庭の子が何人かいて、一人親がめずらしいものではないことが分かった。別の小学校だった子とも同じ境遇だった事から仲良くなり、今では、最高の友達だ。そ

★ 部活動や学校外活動	ソフトテニス部
★ 好きな科目	英語
★ 好きなことや好きなもの	音楽鑑賞・読書・買い物
★ 将来の夢	医療関係の職に就くこと

して小学生だった頃からずっと心にあった友達への不安は完全になくなった。今、私が小学生だった自分に言いたいことは、自分が仲良くなりた、仲良くしたいと思ったら家庭なんか気にするなということだ。現に今の私は自分の家族を誇りに思っている。母は私たちのためにたくさん働き、姉は相手の立場に立って喜び、誰かのために泣いている。弟は、だらしがないがやる時は自分から家事を手伝い、苦手な勉強も一生懸命取り組んで頑張っている。私はこの家族が大好きだ。何があっても突っ走っていける私たちは、どの家庭よりも最高だと胸を張って言える。

このように、一人親世帯と呼ばれることがあるからといって、家族の形が壊れるわけではない。そして、もし昔の私のように自分の家庭を気にしている人がいたら、家族を誇り、自信をもってほしいと思う。この主張を通して、一人親世帯への考えや思いが少しでも良い方向へ変わって欲しい。





優秀賞 楽しく利用するために

尾鷲市立尾鷲中学校 3年

楠 依里香

インターネットは、誰でも簡単に利用することができるツールだ。自分の興味がある情報を得られたり、流行を知ることができたりする。さらにSNSを使う人が増え、誰とでも簡単につながることができる。便利で楽しいツールだが、SNSに対する知識や考えがないと想像もしないトラブルが起こる。

SNSは、多くの人々が利用していて、プライベートの充実や情報の入手、仕事など、使い方は人それぞれだ。私もSNSを利用していて、利用しない日はほとんどなく、周りの友人もほとんどが自分のスマホやタブレットをもって、利用しない日はほとんどない。

私の場合、発信はせずに見ることで楽しんでいるのだが、友人のほとんどは、見るだけではなく、SNS上で発言したり、写真を投稿したりすることで楽しんでいた。私はそのことにすごく驚いた。私にとってSNSで発言したり、写真を投稿したりすることが怖いことだと思っていたからだ。さらに友人は、個人情報特定できる発言や写真を投稿していて心配になった。その友人に危なくないのか尋ねると「皆やってるよ?」と、当たり前のように言われてしまった。そんな友人の言葉から、「皆もしてるなら大丈夫か。だれもトラブルにあってないし。」と、別にそこまで危ないものではないし、私が怖がっていただけだと思った。私も何か投稿してみようと思っていたとき、ある記事を見てそんな考えを見直すことになった。

その記事は、女子中学生がSNSに、軽い気持ちで写真を投稿したことで、あらゆる個人情報が特定されたというものだった。しかも、その写真は顔はかくされており、制服すがたで「塾の帰り」とコメントされたものだった。この時、私は大きな勘ちがいをしていたことに気づいた。制服すがたから学校が特定されたり、投稿日時で生活スケジュールが特定されたりしたのだ。顔が出ている、出ていない関係なく、一枚の写真で簡単に特定されてしまうのだ。その女子中学生はとても怖い思いをしたようで、記事でも「SNSへの軽い気持ちでの投稿はやめよう」と呼びかけていた。やっぱり、SNSでの投稿は危ないのだ。

この記事のことを、友人に話すと「トラブルにまきこまれないためには、SNSを利用しない方がいいのか」という話になった。たしかに、SNSでの発言や投稿をしなければ、トラブルを起こすことはない。だが、まきこまれることはある。例えば、友人が投稿した写真に自分もうつっていたり、個人が特定できる発言をされたりすることもある。

SNSには、悪い面もあるが、良い面もきっと多いはずだ。大切なのは、SNSを利用する、利

★ 部活動や学校外活動	吹奏楽部
★ 好きな科目	理科
★ 好きなことや好きなもの	絵を描くこと
★ 将来の夢	決まっていない

用しないではなく、どう利用するかだ。これからもSNSを利用していくなかで、トラブルを起こしたり、まきこまれたりすることを防ぐことにつながり、楽しく利用することができるはずだ。

SNSを利用することで、自分の興味がある情報を、簡単に見ることができたり、それを多くの人と共有することができたりする。ネット上でつながることも、会話をすることもできる。日本人だけではなく、世界の人々ともつながれる。やはり、SNSは誰でも簡単に利用することができる便利なツールなのだ。ただ、メリットがあればデメリットもあるということをしっかり理解しておかなければならない。そして、自分の行動、言動に責任を持たなければならない。

写真を投稿する前に、本当に投稿しても大丈夫か、こんな発言をしてもいいのか、一回止まって考える。それは、誹謗中傷にならないか、特定につながらないか、顔もわからない相手は、本当に大丈夫か考える。SNSを利用するなら、年齢関係なく、責任をもつ必要があると理解することができた。

これからもSNSを利用する場面がどんどん増えていく。間違った使い方をせず、正しい知識をもって、SNSを理解する人が増えてほしい。私も、多くの人や情報に関わることができるSNSを、楽しむために責任をもって利用していきたい。SNSは楽しむために、便利になるようにつくられたものだと思うから。誰でも簡単に楽しむことができたらいいと思う。





優良賞

「日本の現在 世界の未来」

津市立朝陽中学校 3年

井上 絢斗

二〇二二年二月二十四日、ロシア政府がウクライナに対する軍事侵攻を決行した。その内容は想像を絶するものであり、ロシア軍はウクライナの兵隊だけでなく、一般市民や病院にまでも攻撃を仕掛けている。

僕はこの残虐な争いから、日本の様々な問題点が浮き彫りになったと考えた。

一つ目は、報道についてだ。日本のインターネット記事には、言葉足らずやニュアンスの違いによって、本来伝えるべき事実とは違った情報が掲載されていることが多くある。

今回のウクライナ問題に関する記事にもその例があり、一部の記事には、「ロシアが攻撃」といった表現が使われている。これは、記事の筆者からすれば、ロシア軍のことについて伝えようとしているのかもしれないが、例えばこれを小さな子供が見たらどう思うだろう。僕は、ロシアという国に対して軽蔑感や悪い印象を抱いてしまう人も多く出てくるのではないかと思う。実際に悪いのはロシア政府であり、ロシアという国全体が否定されるべきではない、ということを読みとれない人も多くいるのではないかということだ。

これは、今回のウクライナ問題のみに限った話ではない。僕は、また何か大きな動乱があった時に、世界的に大きな影響力を持ったメディアがこのような報道をしてしまうと、世界中が混乱に陥ってしまうと思う。

二つ目も、情報についてである。ウクライナ問題についてのユーチューブ動画のコメント欄を見ると、ロシア政府を批判するコメントが多くあった。だがこの時僕は、このコメントを書いた人が全員本当に、何故ロシアが悪いのか、ウクライナ側にも非はないのか、と考えた上でこういった意見を持っているのかが気になった。実際に、学校の授業でウクライナ問題について話した時も、僕の聞いた限り全員がロシア政府反対派だったのだが、この戦争が始まった原因やロシア政府が悪いと言われている具体的な理由を知っている人は少ない様に思えた。つまり、あのコメントが偏った表現ばかりだったのは、「みんながロシア政府反対派だから」のように、自分の意見をしっかりと持たず、他人に同調してしまう人が多くいたからではないかと思う。

日本人には他の人の意見に同調してしまい、多数を正解としてしまいがちな特徴がある。

だからこそ、当たり前のことかも知れないが、自分自身で調べ、考え、情報を問いただす力が必要である。

三つ目は、危機意識の低さについてである。ユーチューブのコメント欄を見ると、「日本にロシ

★ 部活動や学校外活動	バスケットボール部
★ 好きな科目	数学
★ 好きなことや好きなもの	読書・音楽鑑賞
★ 将来の夢	法律系の仕事

アは攻めてこない」「来てもアメリカが守ってくれる」というコメントを多く見る。確かに実際はそうかもしれない。だが、こういった危機意識の低さこそ、「平和ボケ」と呼ばれ、他国や評論家から批判を受ける問題点なのではないかと思う。遂に病院や子供にまで攻撃を仕掛けるようになったロシア軍は、いつ日本に攻めてくるか分からない、アメリカが必ず守ってくれるとは限らない。それくらいの危機感を常に持つておくことが、いざ自分たちの身に降りかかった時に混乱せずに対応できることや、前もって準備することにつながるのではないかと思う。

今僕が述べた以外にも、日本にはまだ多くの問題があり、世界にはもっと多くの問題がある。今回のウクライナ問題もその一つである。だが、世界の他の問題の中には、地球温暖化や食料、エネルギー危機など、人間が力を尽くしても、完全に無くすことは出来ない問題もある。そんな中、同じ地球という星の中の国同士が争っているというのは、あまりにも愚かに思える。この世界に降りかかる様々な問題に、世界中の国が団結して立ち向かっていくことが、我々にできる最良の選択なのではないかと思う。

そのためには、世界で唯一の戦争被爆国である日本が、戦争で多くの命を失い、辛い過去を背負ったこの国が、世界中の国同士が手と手を繋ぐための橋渡しをしていくべきだと思う。

そのために、先程述べたものを含んだ日本の数多くある問題点を一つずつでも無くしていき、世界へ目を向け、最後には世界を引っ張って行く。そんな日本を創る一員に、僕もなりたい。





優良賞

一三四〇円の失敗

四日市市立朝明中学校 2年

井上 響貴

コロナ禍ではあったが、僕達家族は父方の曾祖母に、二年ぶりに会いに行った。父と母は車で出発し、曾祖母の家まで電車で行くことになった。時間を決めて、最寄り駅で両親と待ち合わせた僕は、初めて一人で電車に乗った。

これは母の提案だった。これを聞いた時、
「また変なことを言い出した。面倒くさ。」
と思った。家を出たら母に負けた気がして、僕は一歩足りとも動かないつもりでいた。しかし、結局、母の手で踊らされた。一人で行く覚悟は決めたものの、今度は電車を乗り間違えはしないかという不安に襲われた。母に、
「スマートフォンの検索画面を、駅員さんに見せれば、切符が買えるから。」
と教えられた。僕は、今の時代に生まれてよかったと感じていた。駅員さんに、
「特急電車が停まる駅まで行き、そこでもう一回、特急電車の切符を買ってください。」
と案内された。そこで、券売機を探し、お金を入れた。だが、この時僕は、重大なミスを起こしてしまった。特急券を取り忘れたのである。僕は特急の乗り方を知らなかったのだ。そうとも知らず、特急に乗り込み、一息ついて外の景色を見ていた。すると車掌さんに話しかけられた。
「特急券を拝見します。」

乗車券しか持っていないことに、気付いた僕は、焦った。特急券を持っていないと不審に思われると思い、言われるがままに支払った。このことを母に話すと、母は駅に返金をお願いをしたが、無理だった。世の中そんなに甘くない。一三四〇円は返ってこなかった。

この経験を通して僕は一つ気になったことがあった。僕の運賃は、大人料金だった。僕ははたして、「大人」だろうか。僕は中学生で十三歳、成人してもいないのに。なぜ大人と同じ料金なんだろう。

それから数日後、テレビではタイムリーに、成人の年齢が二十歳から十八歳に引き下げられることを伝えていた。大人とは何だろう。

僕がこれまで考えていた大人とは、お酒が飲める人のことだった。しかし、十八歳ではお酒が飲めない。不思議だ。そして、なぜ年が引き下げられるのが、コロナ禍の今なのか。

コロナ禍、僕たち子どもは、学校では黙食、合唱は禁止、話し合い活動を止められているというのに、大人たちはどうだ。えらい人達までお酒を飲んで騒いでいる。我慢できない大人が多すぎる。「自由を得る者が増えれば、同じように不自由を強いられる者が増える。」

★ 部活動や学校外活動	野球部
★ 好きな科目	社会科
★ 好きなことや好きなもの	読書・スポーツ・スポーツ観戦
★ 将来の夢	教師

ある小説の言葉が心によぎる。

僕が思う「本当の大人」とは、内面が強い人だ。内面とは、強い意志であり、正しいことを貫ける心だ。なのに、コロナ禍の大人達は周りに流されてはいないか。

一人旅での僕の失敗を、母は
「特急券代、一三四〇円で学んだね。無駄にしないよう、次気を付けな。」
と言ってくれた。そして、

「日本語が話せるんやから、どんどん人に聞けばいい。」

とアドバイスしてくれた。本当に僕はこの旅で多くのことを学んだ。失敗に気付いた時はけっこうショックだったけど、「大人」になる前の今なら、失敗も糧になると思えてきた。

僕は、まだまだ未熟だと思う。だから僕は、高校を卒業したら大学に行きたい。そして、一人暮らしをしてみたい。その時僕の思う、「大人」に近づいていたい。

僕はこの旅で、スマートフォンを頼った。

だがこれからは、人に頼ろうと思う。そして失敗もたくさん経験しておこうと思う。自分の言葉で伝え、自分で知識を得て、正しく判断し、自分の行動に責任がもてる「大人」になりたい。

スマートフォンに負けないよう、誰かに頼られる「大人」になりたい。





優良賞 助け合い

セントヨゼフ女子学園中学校 3年

新谷 春楽

「助け合い」という言葉といえば、何年か前にテレビ番組のインタビューでハワイの人が言っていたことを思い出します。

「人が困っていたらどんな問題でも助けるのが当たり前でしょ、特別障がいがあるとかじゃなくてね。」

これは、障がいのある子供がハワイの普通の小学校に通っているところ取材したときにその小学校の先生から出た言葉です。この時、私にはじめて「助け合いって何だろう」という疑問が沸き起こりました。そして、「助け合うのが当たり前」というハワイの人々の心が素晴らしいと思ったのを覚えています。

日本の学校では、「お年寄りの方を大切にしましょう。」「障がいのある方に親切にしましょう。」などと教えられます。しかし、私たちが助けなければいけないのは障がいのある方やお年寄りの方だけでしょうか。私はそうでないと思います。例を挙げると、食事中に塩が欲しくても手が届かないとき、塩の近くに座っている人に、「塩を取ってほしい」とお願いすればその人は塩を取って渡してくれるはずです。このような感覚でハワイの人たちは助け合いをしているのだと思います。塩が取れなくて困っていたら取ってあげる。また、車椅子で階段が登れなくて困っていたら手伝ってあげる。このように助け合いとはとても簡単なステップであり、私たちも知らない間に助け合いをこなしているのです。

過去の国語の授業で、障がいのある方を「要支援者」と呼ぶのはどうだという記事に対して自分の意見を書くということをしました。そこで友達が、「私たちも日頃から支援をしてもらっているので、結局世界中の全員が要支援者じゃないか。」という意見を出していて、とても納得しました。生きるのに助けを要するのは障がいのある方や、お年寄りの方だけじゃなく、私たちもなのだと実感しました。だからこそもっと「助け合い」が当たり前になってほしいと思いました。

ではなぜ助け合いがハワイでは当たり前なのか。私は日本人が「助けるのがはずかしい」という概念を持っているのではないかな、と思っています。なぜなら、電車でお年寄りが乗ってきても見て見ぬふりをする大人や、他の席が空いているのに思いやり席に座っている大人をよく見るからです。逆に、ハワイの人々の様に助け合いが当たり前になれば思いやり席なんて作らずとも席をゆずれるのではないのでしょうか。助けたという理由で損をすることはないはずです。むしろ嬉しい気持ちになります。

★ 部活動や学校外活動	バスケットボール部
★ 好きな科目	体育
★ 好きなことや好きなもの	バスケットをすること
★ 将来の夢	子供に関わる仕事

私の祖母は十三年前から左半身が動かず、私が覚えている限りずっと車椅子です。何年前に祖母と母と妹と私で旅行に行ったことがありました。その時、ごはんを食べようとお店に入ろうとしたら入り口に段差があり、車椅子で入るのは無理そうでした。諦めかけていたところ、すかさずお店の人が出てきて入のを手伝ってくれ、四人で楽しく食事ができました。

このように、助け合うことはとても簡単です。また、一方的に助けているだけではありません。助けた私たちだって、心が温まったり一緒に暮らしができたり、利点はたくさんあります。だから、常に周りを見て行動することで数年前に見たハワイの人々のように、「助け合うのが当たり前」な世の中にできると思います。それによって、障がいのある方、お年寄りの方、妊婦の方、そして私たちも壁なく暮らせる、それこそ差別のない社会といえるのではないのでしょうか。私はこうして人とつながることのできる助け合いを一種のコミュニケーションツールと考えます。このように助け合いの見方を変えることで、助け合いの当たり前な未来が近づくとと思います。そして、私の願いは全ての人が平和に幸せに一緒に暮らすことです。その願いを叶える第一歩として助け合いは必要だと思っています。





優良賞 「出会いと交流」

セントヨゼフ女子学園中学校 3年

曾我 果子

私の家の前の大きな道路には、五メートル間隔程に木が植えられています。私が小学校に通いだした頃は、毎年夏が来ると、その木々の根元にはたくさんの雑草が生え、道をさえぎっていました。その当時、私の背丈ほどにもなる雑草の通学路が一キロ近く続いていたのです。しかし、その通学路は、今では季節ごとに花が咲き、歩きやすくてきれいな通学路に変わっています。

この通学路の変化は、近くのお花屋さんの一言から始まりました。
「市場で余ったお花をみんなで街路樹の下に植えませんか。」

幼かった私は、その話を聞いた時、長く続く雑草の通学路が、どこまで変えることができるのか、簡単には想像できませんでした。

始まりは、ほんの小さな近所の輪から動き出しました。それぞれの家の前の植え込みをその家の前の人たちが担当し、雑草を抜く作業から行いました。私の家の前も、雑草を抜いた土に、庭に咲いていたアジサイと同じものを家族みんなで植えてあげました。土曜日や日曜日になると、近所の方が外へ出てきて、雑草を抜いたり、土を耕したり、花を植えたりする作業が何か月も続き、その時間の中で、小さかった私もいろいろな方に声をかけてもらい、面識がなかった方からも名前でも呼んでもらったりするようになりました。

そして、それぞれの家の前の植え込みがきれいになった頃、この花植え活動は広く知られるようになっていました。活動を応援してくださる地域の学校やボランティアの方が手伝ってくださるようになり、たくさんの力が集まった結果、最初はなかなか植え変わらなかった植え込みが、あっという間に、季節の花に植え変わり、私が毎朝歩く通学路は、色鮮やかな花が咲く道となりました。

通学路に植えられたその花々は、私の毎朝の登校を楽しいものにしてくれました。そしてまた、この花植え活動は、雑草が続く一キロもの道を花に植え変えることができるのか半信半疑だった私に、ひとりではできないことも地域の力が合わされば、大きな力や変化を生み出すことができるということを初めて体験させてくれた出来事でした。

このように、地域の人々が力を出し合ったり助け合ったりするという精神は、日本の歴史を見ても、ずっと昔からあるものです。電話や車などがなかった不便な時代に生まれたこの精神が、ロボットなど便利なものに頼れる時代となった今にまで在り続けるということは、便利さだけがすべてではなく、人と人との関わりや温かさは何にも代えることができない大切なものであるということを示しているのだと思います。

★ 部活動や学校外活動	料理部
★ 好きな科目	社会
★ 好きなことや好きなもの	映画を観ること
★ 将来の夢	ものづくりに関わる仕事をしたいです。

中学生になった今、小学校の通学路をつかうことがなくなりましたが、自転車や車でその道を通る時、季節ごとに咲く花を見ると、とてもうれしい気持ちになります。それは、近所の方たちと一緒に花を植えた思い出や、花植え活動をきっかけに声をかけてもらえるようになった地域の方たちとの交流が今でも続いているからだと思います。便利なものに埋めつくされても、人と人との交流は、それ以上のものを私たちに与えてくれます。一人ではできないことも、たくさんの力が出し合って協力することは、大きな結果に繋がるだけでなく、そこに生まれた出会いや絆が、人々の心に温かい感情を残してくれるのだと思います。住んでいる場所によって出会う人が違い、協力する場面も違いますが、それぞれの地域で小さな協力をするによって豊かな社会をつくり出していくことができるのです。





優良賞

障がいという個性と生きる文化

紀北町立潮南中学校 3年

谷口 みこ

私は、「賀楽多」という芸能集団に入っています。賀楽多は基本、和太鼓や笛などの分野で、活躍しています。これから、私が賀楽多に入って学んできたこと、皆さんに伝えたいことを主張していきます。

もともと賀楽多は、地元の民謡や、尾鷲節などの演奏をしていましたが、在籍していた子どもたちに力がついたことにより、創作太鼓に取り組むようになっていったのが始まりです。和太鼓を通して子どもたちに伝統芸能の素晴らしさを伝え、伝統芸能の伝承に取り組んでいこうという先生の意志により結成された賀楽多ですが、近頃は人口の減少により在籍する子どもたちも減ってきています。発足したのが平成十七年で、私が初めて賀楽多に入ったのは平成二十四年頃でした。その頃はまだ対象年齢が幅広かったため人数も多く、大人の方も入っていました。実は私は賀楽多をずっと続けているわけではなく、一度やめています。なぜかというと、周りの人たちと接することが怖かったからです。私は当時、幼稚園児で、人と関わりを持つことに慣れていませんでした。そのせいか、困ったことやわからないことがあっても、最年少だった私には、年上の人たちに話しかけることが怖くてできませんでした。更に、賀楽多には障がい者の方々もいたため、話が噛み合わないときもしばしばありました。この頃にはもう私は、太鼓を叩くことも嫌になり、最終的にはやめるという決断に至りました。しかし、中学一年生の終わりを迎える少し前の二月に、太鼓を教えてくれていた先生と偶然、近くのスーパーで再会し、賀楽多に入っている人たちが三人もやめてしまうというのを聞き、抵抗があったはずの賀楽多に私は、もう一度入りたいと思いました。なぜ一度嫌でやめたのに入りたくなったのかは、そのときは自分でも分かりませんでした。そうして賀楽多に再入団し、真っ先に感じたのは、「不安」でした。なぜなら、私が賀楽多をやめる前にいた障がい者の方々がまだ賀楽多にいたからです。小さい頃の経験からか、うまく接していけるか不安でした。しかし、予想とは違い、一緒に練習していくうちに、もう恐怖心はすっかりなくなり、太鼓を叩くことが楽しみになっていました。私に不安や恐怖を感じさせないもの、それは「成長」です。小さいときよりもいろんなことを理解できるようになったから、障がい者の方々とも認め合えたのではないかと感じました。私がもう一度賀楽多に入ろうと思えたのは、どこかもっと楽しくあったという未練があったからだと思います。

私は、賀楽多に入って学べたことがたくさんあります。特に障がいという「個性」との出会いは私を成長させてくれました。しかし世間では障がいというものに対し、マイナスなイメージを持つ

★ 部活動や学校外活動	陸上競技部・学級委員
★ 好きな科目	英語
★ 好きなことや好きなもの	折り紙・ぬり絵・ピアノ・和太鼓
★ 将来の夢	医者

方も多くいて、賀楽多に再入団するまでは私もそう思っていました。しかし、今はそう思いません。これは、賀楽多を通して障がいと向き合った私だからこそ言えることです。この経験を生かして、皆さんに伝えたいことがあります。それは、障がいと向き合わなければいけないのは私たちでもあるということです。今でも話が噛み合わず困ることもあります。障がいという個性と向き合っ得られるものは、とても大切なものとなるでしょう。これからも私は、自分が賀楽多に所属している限り心身共に成長できるよう他の子どもたちと一緒に、何事にも真摯に向き合い、自分を見つけていける賀楽多を創り上げていくつもりです。障がいと向き合う機会をくれ、今でも私を成長させてくれている賀楽多での貴重な経験は、この先も必ず、私の成長の糧となるでしょう。これから賀楽多を受け継いでくれる子どもたちに、日頃から楽しく学んでもらう環境を創ることを大前提として、自分に足りない部分も見つけて改善していこうと思っています。





優良賞 自分を、人を認める

鈴鹿市立白子中学校 3年

辻 舞衣

「あなたの長所は何ですか。」「あなたの長所を三つ挙げてください。」そう言われたら、あなたはどうか答えますか。「なんだろう?」「えーっ三つ?」戸惑う人が多いのではないのでしょうか。私もその一人です。長所よりも短所が先に思い浮かび、なかなか答えられません。私の友人の何人かも同じです。でも、すぐに答えられる友人もいます。そんな人たちに共通しているのはいつも堂々としていることです。自分をよく知り、認めることができている友人たちです。では自分のことを認められるようになるにはどうすれば良いのでしょうか。

私の、クラスでのあだ名は「じーつー」です。今、私は充実した中学校生活を送っています。「じーつー、ここ教えて。」「じーつー、鍵頼んでいい?」「ありがとう、じーつー。」挨拶や日々の会話は相手の存在を認めているというサインです。クラスメート達に認められていると感じ、私も自分を認められるようになりました。様々な場面で私を支えてくれるクラスメート達はかけがえのない存在です。

テストの前、私はいつも追い込まれて余裕がなくなってしまいます。そんなテスト直前、クラスメートがたくさん声をかけてくれて、私には居場所があると安心できます。テスト勉強のとき、友達是我的説明をほめてくれました。このように周りの人の支えのおかげで自分のことを認められるようになり、人の良いところにも目が行くようになりました。以前より人に感謝することが増え、自分だけでなく周りの人も大切にできるようになりました。自分を認めると、周りの人のことも尊重できると思います。人を思いやれる余裕が生まれて自信がつくはずです。視野が広がり、新しい世界を知ることができます。

自分のことを認めるには感謝の心を大切にすれば良いと私は信じています。感謝の心があれば、いろんなことを大切にできるようになり、いつか自然と自分のことも認めて大切にできるようになると考えるからです。

感謝について二つ印象に残っていることがあります。まず一つは、道徳の授業で教えてもらったことです。中学生が言われて嬉しい言葉の第一位は「ありがとう」だそうです。口にすると相手が嬉しくなり、自分も様々なことに感謝の心が持てるようになる魔法の言葉。そんな「ありがとう」を口にすることで自分だけでなく周りにも良い影響が広がっていくと思います。感謝の心を持って接すれば相手との信頼も深まるのではないのでしょうか。もう一つ印象に残っているのは学年集会でのある先生からのお話です。「みんな右手を前に出して、そのまま頭の上に置いて。右、左に

★ 部活動や学校外活動	卓球部
★ 好きな科目	国語・体育
★ 好きなことや好きなもの	書道・読書・登山
★ 将来の夢	教師

動かして。はい、なでなで。」と言われるままに動かしました。すると自分の頭をなでていました。恥ずかしさもありましたが心が温かくなりました。自分をほめること、感謝することが幸せになるために必要なたった一つのこと。先生は最後に集会の話をこう結びました。「感謝の心を持って小さな幸せを大切にしていってほしい。」

私は毎日、感謝の日記をつけています。「姉ちゃん、おやつにクッキー分けてくれてありがとう。」「後輩のみんな、準備と片付け助かる。」「お肉屋さんの土手煮、おいしすぎて感謝。」「湿布、筋肉痛を治してくれてありがとう。」と人に対しての感謝だったり食べ物やものに対しての感謝だったり様々です。一日の終わりにたくさんの感謝を思い返して、自分の中でもう一度感謝しています。以前よりいろいろなことに感謝の気持ちを持つことができるようになりました。

皆さんも小さなことにも感謝し、家族や友達、周りの人を大切にできる余裕を持ちませんか。少しずつだけどきっと良い変化が起こるはずです。自分の変化は、周りにも伝わって周りの人にも良い変化をもたらすと思います。お互いに認め合い、信頼し合うことで、安心して過ごすことができるようになるのではないのでしょうか。「心が変われば行動が変わる。行動が変われば習慣が変わる。習慣が変われば人格が変わる。人格が変われば運命が変わる。」ウィリアム・ジェームズの言葉です。自分を認める心と感謝の心を持って過ごしませんか。新しい未来があなたを待っているはずです。





優良賞
継ぐ、繋ぐ。

紀北町立紀北中学校 3年

寺浦 日花里

私の生まれ育った町である紀北町は、世界遺産である熊野古道や、奇跡の清流と呼ばれる銚子川などが有名で、江戸時代から続く豊漁を祈願する舟だんじりや、川開き行事として始まったきぼく燈籠祭など、四季を通して伝統的なイベントが沢山あり、私はそれらを毎年楽しみにしています。そして、教室の窓から見える新緑や登下校の景色、特に満開の桜並木を見ると、日々の疲れが吹き飛んでしまいます。しかし、そんな紀北町が抱える問題の一つが過疎化です。私はインターネットで過疎化について調べてみました。

全国的に、地方の人口の減少や高齢化は厳しい状況にあります。電車やバスなどの公共交通機関は赤字化や運転士不足により路線廃止が行われ、少子化によって学校の統廃合が行われています。

第一次産業である農業や林業、漁業も後継者不足による高齢化で廃業が増加しています。それによって若者の働く場所が減っていき、更に過疎化が進んでいるそうです。

今回調べてみて私が一番驚いたのは、「紀北町がなくなってしまうかもしれない」ということです。日本で二〇四〇年までに消滅してしまう可能性が高い自治体を、「消滅可能性都市」というそうで、紀北町もそれに含まれていたのです。

私が大人になった頃、もうこの町はないかもしれないということを知り、衝撃を受けました。それと同時に、このままではいけないと強く思いましたが、何をすればいいのか、私にできることはあるのかと悩みました。考え続けた結果、まずは現状を知ることから始めようと思いました。

私の母は訪問介護の仕事をしています。訪問介護職は、サポートが必要な高齢者の自宅を訪問して身体介護や生活援助を行う、在宅介護の要と言われているそうです。年々利用する人が増加していますが、人手不足により対応しきれずサービスを断ったり、減らしてもらったりすることがあるそうです。大変な仕事ですが、利用者さんの笑顔や「ありがとう」の言葉が母の元気の源であり、この仕事をしていて良かったと思う一番の理由だそうです。過疎化が進むこの町で、暮らしに寄り添い支える素敵な職業だと思いました。

紀北町役場に勤めている父によると、紀北町の人口の約五十パーセントが六十五歳以上で、町民一人あたりの医療費が県内で最も高い、「ワースト」だったそうです。そこで、町民の健康意識を向上させるために、塩分や糖分、アルコールを少し控える食生活「ちょい減らし」と、いつもより体を十分多く動かす「プラス10」のチャレンジ事業を始め、五つのがん検診を無料化したこと

★ 部活動や学校外活動	剣道部・図書委員
★ 好きな科目	理科
★ 好きなことや好きなもの	音楽鑑賞・読書
★ 将来の夢	医師として地域医療を支えたい

により、全ての検診で受診率が向上し、一人あたりの医療費が二十九市町中、六位まで改善したそうです。紀北町をもっと暮らしやすい町にしたいという想いの詰まった取り組みを知り、紀北町のために頑張ってくれている方々の存在に気付くことができました。

今回様々なことを調べてみて、知ることの大切さを学びました。知らないという事と、知っているという事では大きな差があります。知ることで、問題に対してこれから自分はどうあるべきか、何ができるのかを考えることができ、行動に繋がっていくのだと思いました。

東紀州は県内でも病院勤務医が少なく、救急医療などの対応が難しい地域だそうです。私は将来医療従事者になり、同世代の人と協力して地域医療に貢献したいと考えています。そのために、今自分にできることをし、諦めない強い心を持ち続けます。このメッセージで、地域、地方の現状と課題に関心を持ってくれたら嬉しいです。それぞれの地域を守る為に、同じ想いを胸に自分達の町の伝統を受け継いで、未来に繋いでいきましょう。





優良賞 差別と区別

名張市立桔梗が丘中学校 3年

西川 心菜

私の父は、耳が聞こえません。聴覚障がい者と呼ばれる人です。世の中には、身体障がい、知的障がいなど障がいをもった人がいます。一方で、`障がい者差別、という言葉も耳にしたことがあるのではないのでしょうか。私は学校で部落差別や男女差別といった、さまざまな差別について学んできました。授業の最後には「差別をなくすためにできること」について考えることが多いのですが、私はこの時、いつもきれいごとばかり書いているような気がします。「自分の周りにある差別からなくしていきたい」「差別をしている人がいたら注意をしたい」と書きますが、実際そんなことができるのかと言われると、「はい」と言える自信はありません。では、この`差別、という問題についてどう向きあえばいいのでしょうか。

父が働いている会社では、障がい者採用というのがあり、障がいをもった人も多く働いているそうです。父は、主に機械を組み立てたりする仕事をしているのですが、耳が聞こえない人はヘルメットの色が違って、ひと目で分かるようになっていました。このことに対して私は、意識をもって取り組みをしているとても素敵な会社だと思いました。

でも、一つ思ったことがあります。「差別」という言葉には「区別すること」という意味もあります。このことから考えると、健常者と障がい者を「区別すること」は差別に当てはまってしまうのではないのでしょうか。しかし、だからといって健常者と障がい者を区別しなかった場合、さまざまな問題が起こってしまいます。特に、聴覚障がいは見ただけでは分かりにくい障がいなので、ヘルメットの色を変えるなどの対策をしなかった場合、普通に呼びかけても聞こえないので気づかないということになります。これが普通の会話だったらまだいいものの、何か物が落ちてきていたり、車にひかれそうになっている場面だと、健常者だと思って「危ない!」と、声をかけても、実は耳が聞こえなくて事故に巻き込まれるという可能性もあると思います。差別してはいけないと学んでも、障がいをもった人をひと目で分かるようにする工夫も必要なのです。「差別してはいけないが、時には区別する工夫もある」というのは大きな矛盾だと思います。

これは、世の中のいろいろなことにしても考えられると思います。例えば、オリンピックとパラリンピックです。基本的に、健常者はオリンピック、障がいをもった人はパラリンピックという風に`分けられています。でも、オリンピックとパラリンピックに分けないと、障がいをもった人は大きなハンデがあり不利になってしまうので、これは分けるという工夫がされています。けれども、障がい者スポーツには健常者も出場できることがあるのです。それは、車いすバスケットボールな

★ 部活動や学校外活動	陸上競技部
★ 好きな科目	英語
★ 好きなことや好きなもの	ダンス・ピアノ
★ 将来の夢	ヘアメイクアーティスト

どの競技です。車いすに乗れば、足に障がいが無くてもプレーすることができます。このことは素晴らしいことだと思いました。障がいの有無に関係なく、チームで勝利を目指していくところがとてもいいと感じました。

このように、障がいをもった人もそうでない人も一緒に楽しめるスポーツがあったり、逆に障がいがある人とそうでない人とを分けてするスポーツもあるのだなと思いました。「パラリンピックは障がいをもった人、オリンピックは障がいをもっていない人」と分けるのが当たり前になっているけれど、みんな一緒に同じ競技ができる大会もできたらおもしろそうだなと思いました。

これらのことを考えてみて、結局私には何ができるのだろうと思いました。障がいがある人とそうでない人を分けることは差別があると考えるか、分けた方がみんな楽しく生きられると考えるかは一人一人違うと思います。どんな風に社会をつくっていくのか、正解はないので、この問題はとても難しいと思います。でも、今私ができることは、困っていたら助けるということではないかと思いました。相手が誰であっても、障がいの有無に関わらず、目の前の人を助けられるような人になりたいです。





優良賞

地域の中で人とつながるために自分ができること

伊賀市立霊峰中学校 1年

平地 明奈

国は、すべての国民がそれぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない地域社会を築いていこうとする取り組みを行っています。私は、明るい地域社会を築くためには地域住民とのつながりが重要だと考えます。そして、自分の住んでいる地域が、皆が、親しく知り合いのように接していける関係を作り、地域で気持ちよく暮らすことができるようになってほしいと思います。そこで、地域住民とつながるためには、その手段の一つとしてあいさつが大切ではないかと考えました。

私は中学生になってから自転車通学になり通学路も変わりました。そのため、今までと違う地域の人たちと出会う機会が増えました。私はゴミ出しに来ている人や小学生の通学に伴っている人、自転車に乗っている人などによく出会い、あいさつをしています。また車に乗っていても横を通るときに窓を開けて

「おはよう。行ってらっしゃい。」

と言ってくれる人や毎日散歩を日課にしている高齢の人など、地域の人からもあいさつをしてくれます。通学途中に出会う多くの人たちが、気軽に声をかけてくれるため、私は嬉しくて毎日あいさつを返しています。始めは知らない人たちでありましたが、毎日あいさつを交わすことで顔なじみとなり、今日も元気になっているなど関心を持つようになってきています。私は、毎日あいさつをしていくことが地域住民とつながる第一歩になっていると感じています。

あいさつが大切であると考え理由は二つあります。一つ目に、例えば、地域で何か起こっていたとします。知らない人であれば他人事と考え、自分が行動を起こしにくいと思いますが、普段からつながりがあり、地域の事柄に関心を持っていれば、地域の人々と関わりやすくなるのではないかと思います。また、知らない場所、知らない人に事件が起こっていても他人事として感じ真剣に考えることができないことがあります。しかし、それは他人事なのでしょうか。起こっていることは、何かのつながりで自分たちにも影響していることも多いと思います。だから、一人一人が社会で起こっていることには関心を持ち、自分にできることを考え行動していくことが大切だと思います。そのために、あいさつでつながりを作ることができれば、他者との関係性が生まれ、何か起こっても他人事とせず自ら関わりやすくなると思います。

二つ目に、あいさつをすると気持ちが良いです。あいさつをすると人とのつながりを感じることができます。人は自分の気持ちを伝えたいと思うし、伝わると嬉しいと感じます。さらに、あい

★ 部活動や学校外活動 女子卓球部

★ 好きな科目 数学・理科

★ 好きなことや好きなもの 音楽鑑賞

★ 将来の夢 看護師

さつをすることでお互いの気持ちを伝えあえるきっかけにもなると思います。他者から気持ちの良いあいさつが返ってくるということは、相手も人とのつながりを求めて、関わりを大切だと思っているのではないのでしょうか。人は一人では生きていくことはできず、お互い、助け合わなければなりません。

これらのことから、あいさつを通じて地域住民とつながることは、明るい地域社会を築くことにつながっていくと考えます。あいさつは単に言葉を交わすだけでなく、あいさつを通して相手のことを知ることができ、関心を高めあえる。だから、みんなが住みやすい地域になるよう、自らあいさつをすることを続けたいと思います。そして、あいさつをきっかけにして、お互いが支えあえる地域社会を作っていくために、自分には何ができるのかを考えて行動していきたいです。





優良賞 感謝の気持ち

いなべ市立藤原中学校 3年

森上 那柚

私は日々、身近な人に「ありがとう」と感謝の気持ちを伝える大切さを感じています。

私は中学生になり、毎朝バタバタしてしまいます。そのため、いつも朝は祖母が自転車を車庫から出したり荷物を荷台にくくりつける手伝いをしてくれます。

その日は友達との集合時間に遅れそうで焦っていました。私が自転車のカバーを探していると祖母は家の中を見てくると言い探しに行ってくれましたが私は焦っていたこともあり「もういない!」と言い家を飛び出しました。少し冷静さを取り戻し「探してくれてありがとう。」も「ってきます。」も言わなかったこと少し気にしながら登校していましたが「焦っていたから仕方がない。」と理由をつけて忘れてしまいました。

学校から帰り部屋にいるとリビングから祖母と父の話が聞こえてきました。「最近、那柚がありがとうを言わなくなった。今日の弁当の感想を聞いても『全部食べた。』としか言わなかった。」と悲しそうに話していました。これを聞いた私は最近、感謝することを忘れていることに気が付きました。

たしかに思い当たる節がありました。いつも畳んだ洗濯物が部屋に置いてあることも、帰ってきたら、ごはんができていることも毎日のことで当たり前になっていました。

私の両親は共働きで祖父は手足が不自由です。そのため小さい頃から、いつも私達三人兄弟の面倒をみてくれていたのは祖母でした。母は看護師をしています。そのため夜勤で夜に仕事に行くことがあり朝は祖母しかいないことがよくあります。そんな日は祖母が誰よりも早く起きて、洗濯物を干し、兄と父の二人分の弁当を作り、全員分の朝ごはんを作る。それに加え、私の朝の準備を手伝ってくれる祖母に、あのようなきつい言葉をかけてしまったこと、悲しそうな顔をさせてしまったことに、とても後悔しました。いつも家に帰ると「雨なのに大変やったね。」テストの日には「緊張せずに頑張っておいで。」と声をかけてくれたのは祖母でした。もし、家に祖母がいなかったら私は塾に行くこともできないし、帰ってきたら自分で夜ごはんを作らなくてはいけなくなります。私が生活の中で不満を感じず過ごすことができるのは祖母がいてくれるおかげだと改めてわかりました。やってもらえることが当たり前になり、ついつい忘れてしまう感謝の気持ち。「ありがとう」の、たった五文字の言葉さえ伝えることができなかった自分が恥ずかしくなりました。

私には、おばさんがいます。私のおばさんは高校生の頃に自分の祖父を亡くしました。その日は車で迎えに来てくれた祖父に、きつく当たってしまったそうです。そして、その日の夜、突然

★ 部活動や学校外活動	ソフトテニス部
★ 好きな科目	国語
★ 好きなことや好きなもの	本屋に行くこと
★ 将来の夢	人の役にたつ仕事

祖父が亡くなったそうです。最後にきつく当たってしまったこと、ありがとうを伝えられなかったことに今でも後悔していると聞きました。おばさんからは、どんな小さなことにも感謝して、一番身近な人を一番大切にすべきだと教えてもらいました。私も後悔をしないために「ありがとう」の気持ちを日頃から伝えていこうと思います。何か物を取ってくれて「ありがとう」ごはんを作ってくれて「ありがとう」どんな小さなことでも一つ一つ「ありがとう」の感謝を伝えることは、とても大切なことだと分かりました。

最近祖母は「疲れやすい」「肩が痛い」と言うことが増えました。今まで、たくさん助けてくれた祖母を次に支えるのは私の番だと思っています。自分が使った水筒や食器は自分で洗ったり休日なら洗濯を干すことも手伝えると思います。家事は、得意ではありませんが私も祖母と同じように家族の一員として、感謝を忘れずお互いに助け合っていこうと思います。十四年間、両親、祖父母をはじめ、たくさんの人にお世話になってきました。今まで言い忘れていた「ありがとう」がたくさんあることに気づけた今だからこそ伝えたいです。「いつもそばにいてくれてありがとう。」



審査委員の講評 (順不同・敬称略)

【審査委員長】伊藤 信成 (国立大学法人三重大学 教育学部長)



今年度の中学生のメッセージは3年ぶりに対面での開催となりました。行動制限がかかる中ではありますが、以前に近い状況で開催できたことを嬉しく思います。県内各地から選ばれた主張はどれも素晴らしく、審査には大変頭を悩ませましたが、中学生の皆さんの瑞々しい感性に触られたことは、私自身にとっても貴重な経験でした。本来であれば発表したみなさん個々に講評をするところではありますが、紙面の関係上、全体を通して感じたことを2つ述べたいと思います。

まず1つは、皆さんが取り上げたテーマが非常に多岐に渡ったことです。LGBTQや障がいについて、SNS、世界情勢、郷土の将来、地域社会での連携など、多様な分野が取り上げられていました。どうしてもコロナ問題に目が行きがちな昨今ですが、そんな中で様々な角度から社会を見てくれている姿をととても頼もしく感じました。どの主張も自分自身の経験からの問題提起でしたが、決して個人の問題で終わることなく、社会や我々「大人」に対して明確で強いメッセージを発しており、我々審査委員も身が引き締まる思いで、その主張を受け止めさせていただきました。また、単に社会に対して主張するだけでなく、自ら行動していく姿勢も随所に見受けられ、とても心強く感じました。

もう1つは、声の力です。多くの人の前で発表をするのはとても緊張したと思いますが、発表者のみなさんは淀みなく発表を行っており、長い時間をかけて練習をしてきたことが良く伝わってきました。その上で、「この部分は絶対に聞いて欲しい」、「これが私の本当に言いたいことなんです！」という気持ちを聞き手に伝えるためには、思いを声にのせることが大事だと改めて感じました。コンピュータ音声も良く耳にするようになりましたが、人の声には力があります。感情が伴った声は心にダイレクトに届くものですので、沢山の人の前で発表したという今回の経験を、ぜひ今後に生かしてもらいたいと思います。

さて、今回の発表者14名の中から、最優秀賞1名、優秀賞3名、優良賞10名をそれぞれ選ばせていただきました。先に述べた通り、みなさんの原稿はいずれ劣らぬ素晴らしいものでした。その中で、最優秀賞「大切な私のふるさと」を発表された北村遥香さんの主張は、何もないと思っていた自分の故郷が、実は人も自然もとても豊かであったということに気がつき、故郷に誇りを感じるというものでした。中学生の頃は、都会に憧れを持つ年代だと思いますが、日常生活の中で当たり前だと思っていることに価値を見出すのは、大人でも難しいことです。そんな中で、自然や人のつながりに価値を見出す内容は、真の豊かさとは何かを聞き手に問うようなものでした。また発表も、北村さんのご家庭の食卓の様子や食卓を囲むご家族の様子などが、色鮮やかに浮かび上がるだけでなく、香りや音など五感を通して情景を感じられる素晴らしいものでした。これからは故郷の素晴らしさを見つけ、発信し、仲間を増やし、地域を盛り上げて欲しいと思います。

最後になりますが、中学生のメッセージ2022は3年ぶりの対面開催であり、開催にあたっては例年以上に慎重な対応が必要だったことと思います。特に大会運営に関わった中学生のみなさんの対応は本当に素晴らしいものでした。大会の開催に向けてご尽力いただきました関係者のみなさまに厚く感謝申し上げます。

【審査委員】 間野 丈夫 (三重テレビ放送株式会社 常務取締役)



悲惨な戦場の実相がSNSによって私たちの穏やかな日常生活の中に同時中継されてしまうような状況にあって、中学生の目はふるさとの美しい星空を見上げ、自分の身の回りの世話をしてくれる祖母のありがたさを感じ、家族や地域の人たちの助け合いを喜び、家族と囲む食卓に供される地元食材のおいしさを再発見しています。

身の回りの小さな幸せを、ことさらに強く感じているようです。大人たちは日本を世界に誇れる国にするのだと肩肘を張りますが、中学生たちは家族やふるさとの人々に大きな誇りを持って生きることが伝わってきます。

進学のために都会へ出て行って、その一見華やかで便利な暮らしに馴染んでしまったら、本当にふるさとに帰ってくるでしょうか。帰りたくても帰れない人もいるでしょう。でも、希望があります。中学生たちは今、ふるさとを良くするために自分ができることは何かを懸命に考え、それを行動に移そうと決意しているからです。

【審査委員】 出口 隆久 (尾鷲市教育委員会 教育長)



6,860名の応募があったなかから選び抜かれた14名の中学生の皆さんのメッセージは、まっすぐで力強い主張となっていて、私たちの心にしっかりと残るものばかりでした。

皆さんが自分の生き方についてしっかり考え、また地域社会や広くは世界に目を向け、現状に対してどのように考えているか、どうあってほしいのかをしっかりと訴えている姿を見て頼もしく思うと同時に、私たちが皆さんのメッセージをしっかり受け止め、一緒になってこれからの社会づくりに活かしていく責任も感じています。

そして、中学生の皆さんには、誰もが安心して生きていける社会となるよう、これからもしっかりと問題意識を持ち、自分の考えを声に出し続けてほしいと思っています。

結びに、発表された中学生、大会運営に協力いただいた地元中学生、そして関係者の皆様にご心より感謝申し上げます。

【審査委員】中井 克佳（紀北町教育委員会 教育長）



3年ぶりに中学生の運営協力と実践発表を含んで開催されました本大会において、14名の中学生のみなさんから「新しい未来を、豊かな社会を、自分たちが創っていく」という、素晴らしいメッセージを聴かせていただきました。自分の感じたことを、いろいろな情報を集めて自分なりに検証を加え、住む地域の言葉もまじえながら、表情豊かにさわやかに表現していたところに、中学生のメッセージ大会は新しい歴史が幕開けしたように感じました。

また、ポスターや実践発表でも、中学生らしい、心の中から湧き出るみずみずしい感性とエネルギーを、見事に届けていただきました。

この3年間、中学生のみなさんは感染症の影響でいろいろな「試練」に出会い、時に息苦しさを感じた時間の中で、「課題解決をあきらめない力」が育ち、「一人では乗り越えられなくても、近くにいる家族、友人、仲間と共に歩いていくこと」の大切さを学び、今回のメッセージに表してくれたように思います。

当日発表していただいたみなさんのメッセージはこの冊子にまとめられ、これから多くの方たちの心に届けられます。世代を超えてたくさんの方に読んでいただき、共に豊かな未来の創り手となって歩んでいきましょう。

最後になりましたが、この大会にむけて応募されたたくさんの中学生のみなさん、ご指導いただいた先生方、感染者が増える中で安全な大会運営を支えていただいた中学生と関係者のみなさまに心から感謝申し上げます。

【審査委員】山下 隆久（三重県小中学校長会 幹事〈松阪市立嬉野中学校 校長〉）



「真っ直ぐな思いを込めたメッセージには説得力があるなあ」と発表を聴き終えて、まず感じました。

自分は何を経験して何を感じたのか？今の自分に何ができるのか？自分自身と向き合うことを誠実にやり切ったからこそ、説得力のあるエネルギーギッシュな主張が伝わってきたのだと私は振り返って思いました。

デザイン画「思い出とともに」で表現されている笑顔のように、中学生の皆さんの真っ直ぐな言葉は、私たち大人をワクワクさせます。他者との絆を育み、自分の夢を自分の言葉で語り伝え、みんなが幸せになれる豊かな未来をつくってください。

この素敵な場を創っていただきました、参加者である中学生の皆さん、三重こどもわかもの育成財団はじめ関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

【審査委員】奥川 雅弘（三重県PTA連合会 常任幹事）



今年度の「中学生のメッセージ2022」はコロナ禍ではありますが、例年通りの対面発表があり素晴らしいメッセージに出会うことが出来ました。

中学生の皆さんが日頃から感じている想いや経験を書かれたメッセージには、新しい発見や力強い前向きなメッセージが多く、今を生きる中学生の鋭い感性が伝わってきました。

発表においても、文章を黙読するだけでは伝わらない対面での表情や、話し方などの影響力の強さに改めて驚かされました。また、皆さんの成長をサポートする大人の一人として考えさせられることも多くありました。皆さんが思い描く明るい未来に向けて一歩一歩迷うことなく進むことを願っています。

最後になりますが、本大会を開催するにあたりご尽力いただきました関係者の皆様、参加された中学生の皆様にご心から感謝申し上げます。

【審査委員】植村 奈津子（三重県私学協会〈津田学園中学校・高等学校 教諭〉）



近年、発表者の皆さんのような若者を取り巻く環境は日本国内外で目まぐるしく変化しています。その中で思春期という多感な時期を過ごす皆さんは、楽しいことばかりではなく、納得いかないようなことや悲しい思いをしたこともあったことだろうと思います。

自分の気持ちを誰かに伝えるということは、とても勇気がいることです。そして、どんな言葉を使えばいいか、どんなジェスチャーをすればわかってもらえるか…大人の私たちでもとても難しいです。しかし、今回の発表者の皆さんは、自分らしい言葉や動きで思いを精一杯伝えてくれました。今を生き、そしてこれからの社会を担う皆さんの真摯な気持ちを受け取り、大人の私たちも身が引き締まる思いがしました。今回の経験は、皆さんにとって心強い味方になってくれるはずです。これからも伝える勇気を大切に歩いていってください。

【審査委員】鈴木 佐知（三重県教職員組合 中央執行副委員長）



作文を読むなかで、みなさんの「伝えたい思い」を感じました。日々の生活でみつめていたこと、考えてきたこと、そこにはわたしたちおとなが気づきもしない鋭い視点がありました。そして、それぞれが課題とどう向きあったか、その解決のためにどう動いたのか、さらに一步すすめるためにどうしたのかが綴られていました。メッセージの視点がみなさんの生活にもとづいたものであるからこそ、読み手に問いかけてくる力強さがありました。

今日はこの場で、代表14人のみなさんのメッセージを受け取りました。発表が終わったいま、「伝えたい思い」があることは素晴らしいことだとあらためて思いました。今後のみなさんのますますの活躍を期待しています。ありがとうございました。

.....

【審査委員】西崎 水泉（三重県子ども・福祉部 次長）



コロナ禍に開催された「中学生のメッセージ2022」では県内各地から選ばれた14名の皆さんが堂々とした態度で発表し多くの感動を与えてくれました。

事前に読ませていただいた作品はどれもコロナ禍、我慢を強いられることが多い生活のなか身近な体験をもとに素直で豊かな感性のなかに鋭い視点で表現された内容のものばかりでした。また、壇上で皆さんが表情豊かに自分の言葉で自分の考えを力強く訴えることで作品はより説得力のあるものとなりました。

皆さんにはこれからも、どのような状況であっても、周囲に目を向け、自ら考え、行動し、自分の言葉で発信してほしい、そして夢と希望を持ちながら豊かな未来を切り開いてほしいと願います。

最後に大会運営に携わっていただきましたすべての方々に心より感謝申し上げます。

【審査委員】水元 正（公益財団法人三重こどもわかもの育成財団 副理事長）



中学生のメッセージ2022が開催されましたことに関係団体、関係者の皆さんに感謝申し上げます。特に紀北地区中学生のメッセージ実行委員会の皆さん方、地元中学生の皆さん方はメッセージのデザイン画、大会運営に携わっていただきありがとうございました。

今年発表された皆さん方は堂々として落ち着いて発表され、自分の思いや考え方が主張でき、そこには何物にも、感謝する気持ちと和らいだ感覚が感じられ、自分の気持ちを素直に主張されました。

今、いろんな情報が溢れていますが、その情報は悪意に満たされたものも沢山あり溺れることなく取り入れようとしていることがうかがわれました。

中学校で教科にもなっているかなと思われる地域とのかかわりや、地域をどうしたらよくなるだろうかといった提案、自分の住んでいる地域をよく知り故郷を大切に思う心が感じ取れ非常に良かったです。

ご協力いただいた審査委員の皆さま

審査委員長	伊藤 信成	国立大学法人三重大学 教育学部長
審査委員	間野 丈夫	三重テレビ放送株式会社 常務取締役
	出口 隆久	尾鷲市教育委員会 教育長
	中井 克佳	紀北町教育委員会 教育長
	山下 隆久	三重県小中学校長会 幹事（松阪市立嬉野中学校 校長）
	奥川 雅弘	三重県PTA連合会 常任幹事
	植村 奈津子	三重県私学協会（津田学園中学校・高等学校 教諭）
	鈴木 佐知	三重県教職員組合 中央執行副委員長
	西崎 水泉	三重県子ども・福祉部 次長
	水元 正	公益財団法人三重こどもわかもの育成財団 副理事長



大会概要

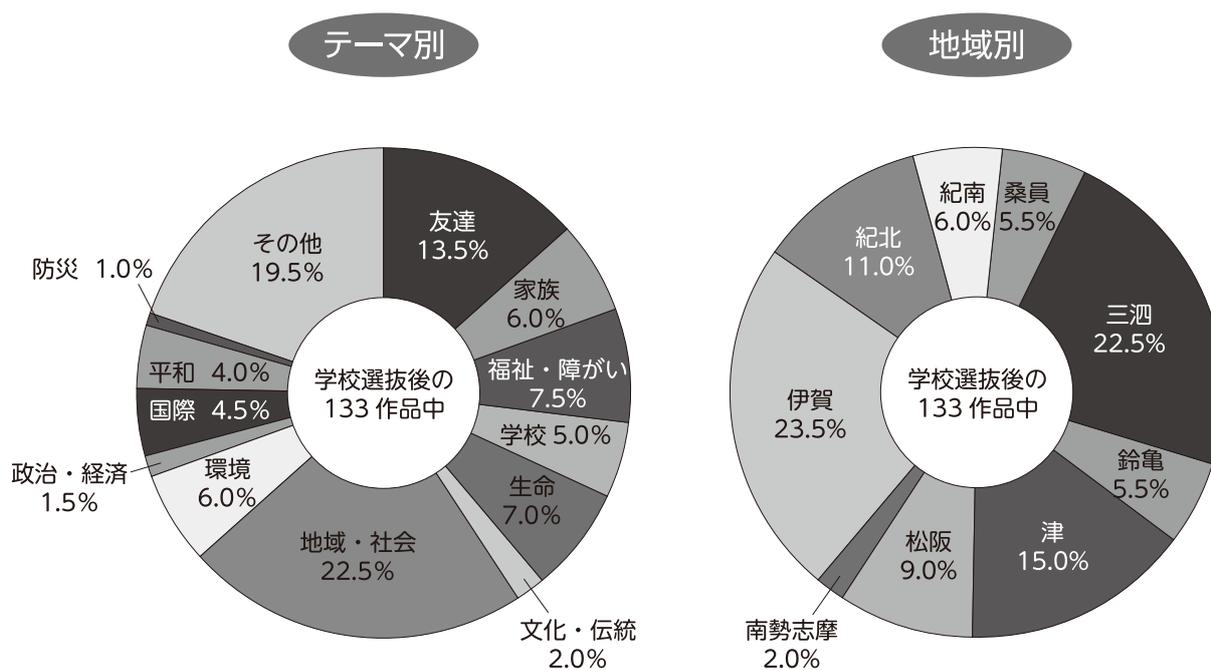
1 応募の状況

(1)応募者数

地区名	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
北勢	5,177	4,131	5,811	3,923	2,648	1,604
津	845	2,762	938	964	1,289	256
松阪	534	536	518	671	1,885	569
南勢志摩	3,590	601	123	101	86	75
伊賀	2,052	1,595	3,952	3,749	3,678	3,790
紀北	286	250	247	217	258	242
紀南	147	291	493	149	337	324
計	12,631	10,166	12,082	9,774	10,181	6,860

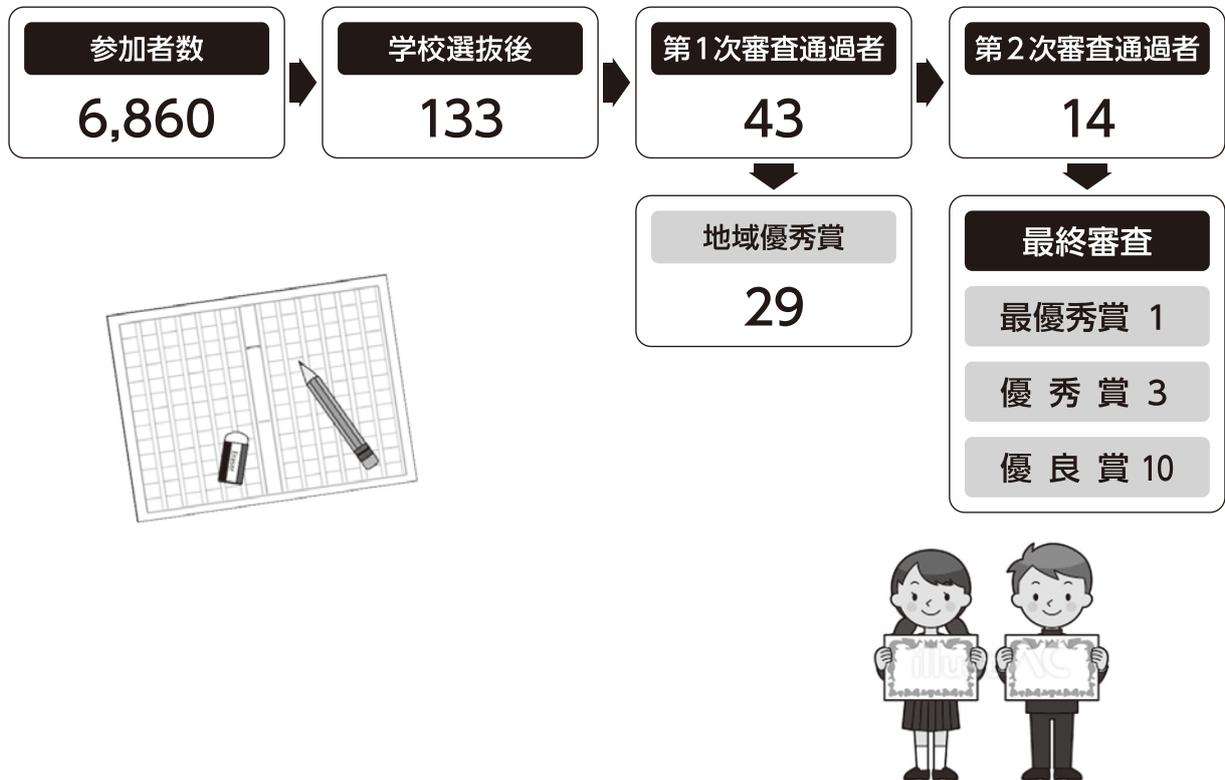
応募作品のテーマ・地域別の内訳

応募点数6,860の内、学校における選抜を受けて当財団に提出された133作品の内訳です。

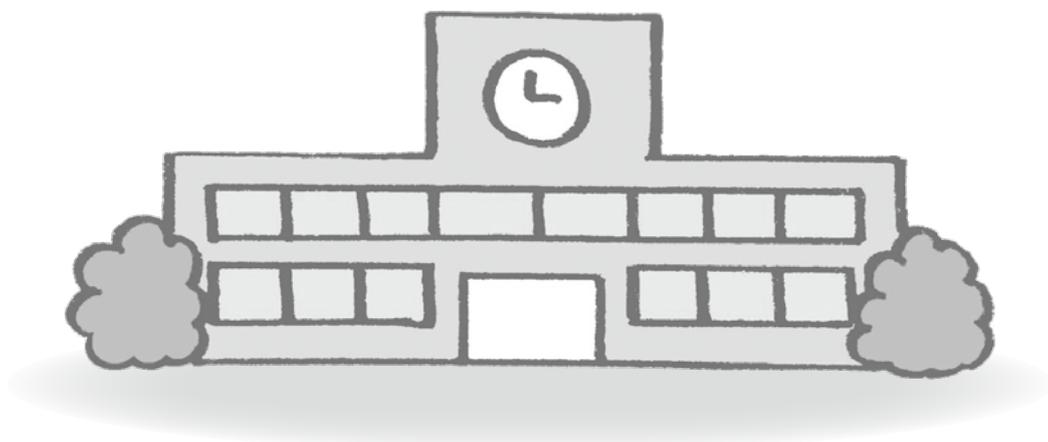
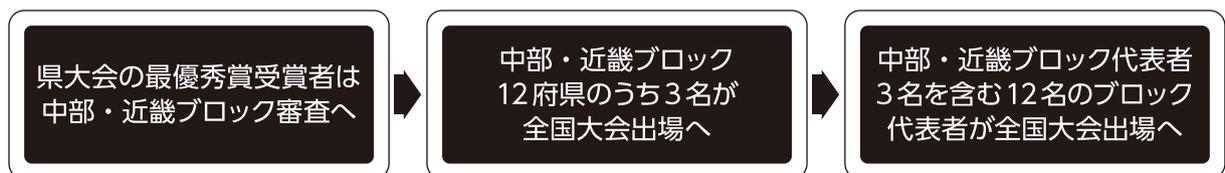


(2)選考の過程

1. 県大会



2. 全国大会



2 地域優秀賞受賞者一覧

No.	学 校 名	学年	名 前	タ イ ト ル
1	いなべ市立藤原中学校	3	藤本 萌愛	今の世界に私たちができること
2	四日市市立中部中学校	3	角田 夏穂	安全な水のために
3	四日市市立富洲原中学校	3	平田 楓乃	「時間を大切に」
4	四日市市立富田中学校	3	山下 葵衣	私の願い
5	四日市市立南中学校	3	渋谷 菜々美	SNSとの関わり方
6	四日市市立南中学校	3	永田 あかね	私のひとりごと
7	四日市市立西陵中学校	3	田中 優彩	「ワクチンについて考えよう」
8	四日市市立大池中学校	3	中村 有沙	認め合う
9	四日市市立三重平中学校	3	天野 莉沙	認め、好きになる
10	四日市市立西朝明中学校	3	井上 蔵之助	SNSのあり方
11	鈴鹿中等教育学校	2	上田 紗由美	当たり前とは
12	津市立西橋内中学校	3	牧田 麻衣	繋がりが持つ笑顔の種
13	津市立美杉中学校	3	魚見 柚菜	「家族のカタチ」について
14	セントヨゼフ女子学園中学校	3	出口 桜子	「貧困のない世界へ」
15	松阪市立飯南中学校	3	杉坂 陽	「日本人である誇りをもって生きる」



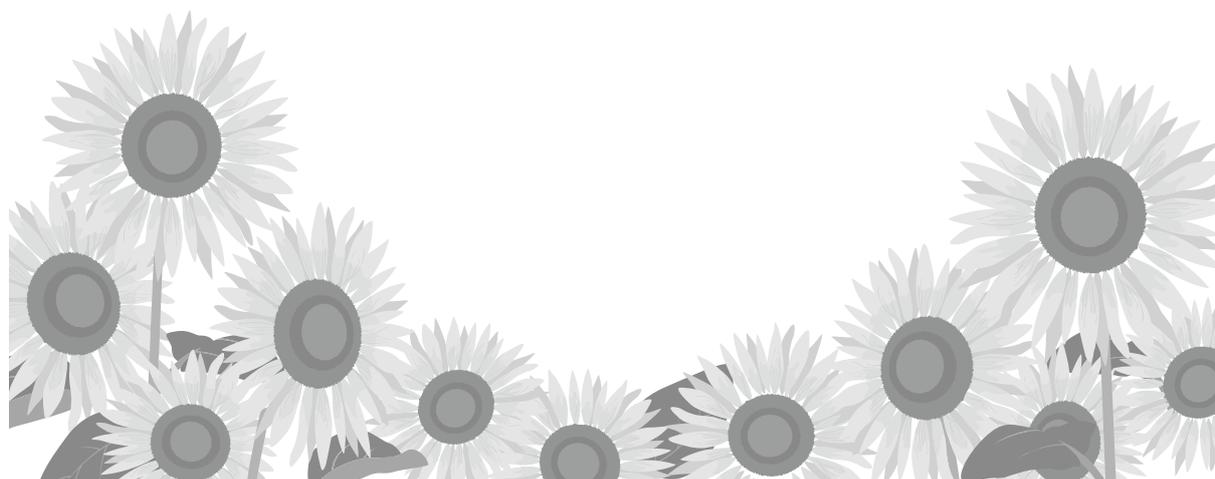
No.	学 校 名	学年	名 前	タ イ ト ル
16	松阪市立飯南中学校	3	谷口 文明	感染症が広がる今
17	多気町立勢和中学校	3	田中 詩葉	僕の私の性別は
18	多気町松阪市学校組合立多気中学校	1	山田 凜	多気町と食べ物
19	伊賀市立緑ヶ丘中学校	2	永井 愛望	人を大事にできる社会へ
20	伊賀市立城東中学校	3	森 琴望	「地域の人とのつながり」
21	伊賀市立上野南中学校	2	西岡 愛怜	食品ロス
22	伊賀市立霊峰中学校	1	稲葉 美織	コミュニケーションによる、 ストレスフリーな生き方と幸福感
23	名張市立名張中学校	1	山田 さくら	人と関わる時に大切だと思うこと
24	名張市立赤目中学校	1	杉谷 莉愛	コミュニケーションの大切さ
25	名張市立赤目中学校	2	岡田 理沙	当たり前のありがたさ
26	名張市立桔梗が丘中学校	1	森 衣吹	一人の人間として
27	名張市立南中学校	3	武市 絆生	猫と人間の共存について
28	尾鷲市立尾鷲中学校	3	森田 真瑠	自然が大好き
29	紀宝町立矢漕中学校	3	岡出 美咲	消えない差別や偏見



3 学校奨励賞受賞校一覧

No.	学 校 名	No.	学 校 名
1	四日市市立港中学校	16	伊賀市立上野南中学校
2	四日市市立塩浜中学校	17	伊賀市立霊峰中学校
3	四日市市立富洲原中学校	18	伊賀市立島ヶ原中学校
4	四日市市立西笹川中学校	19	伊賀市立大山田中学校
5	四日市市立三重平中学校	20	伊賀市立青山中学校
6	鈴鹿中等教育学校	21	名張市立名張中学校
7	津市立美杉中学校	22	名張市立赤目中学校
8	津市立みさとの丘学園	23	名張市立桔梗が丘中学校
9	松阪市立飯南中学校	24	名張市立北中学校
10	多気町立勢和中学校	25	名張市立南中学校
11	多気町松阪市学校組合立多気中学校	26	尾鷲市立輪内中学校
12	皇學館中学校	27	紀北町立赤羽中学校
13	伊賀市立崇広中学校	28	紀北町立三船中学校
14	伊賀市立緑ヶ丘中学校	29	御浜町立御浜中学校
15	伊賀市立城東中学校	30	紀宝町立矢渕中学校

※学校奨励賞は、積極的に応募に取り組んでいただいた学校（全校生徒の50%以上）が受賞されました。

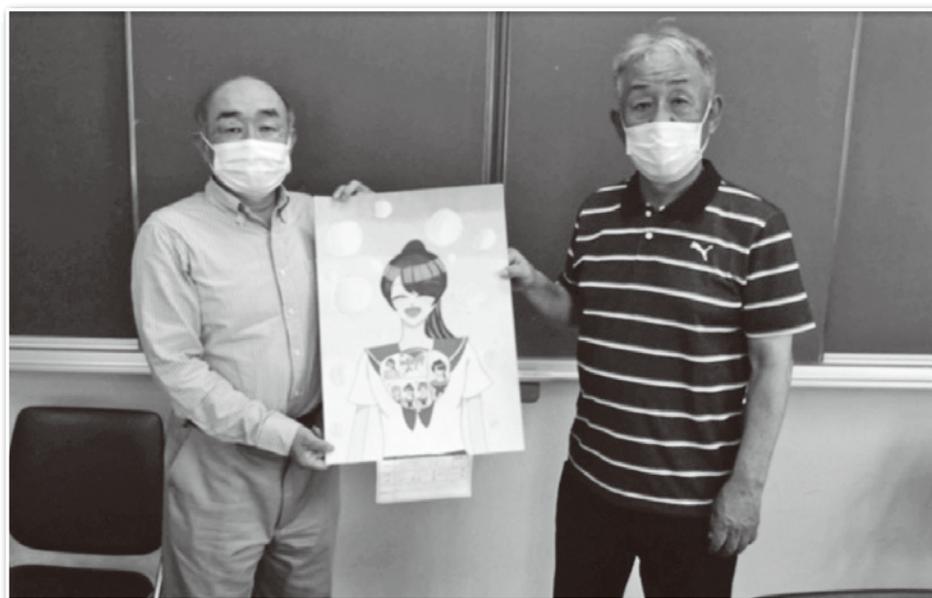


4 デザイン画受賞者一覧

賞	学 校 名	学年	名 前	タ イ ト ル
最優秀賞	紀北町立紀北中学校	2	浅野 薩貴	思い出とともに
優秀賞	尾鷲市立尾鷲中学校	2	橋爪 綾那	努力の結果
優秀賞	尾鷲市立尾鷲中学校	2	山邊 夏姫	思いよ届け
優秀賞	紀北町立紀北中学校	3	南 春花	本を読むと見える道



デザイン画審査会で入賞作品を選出

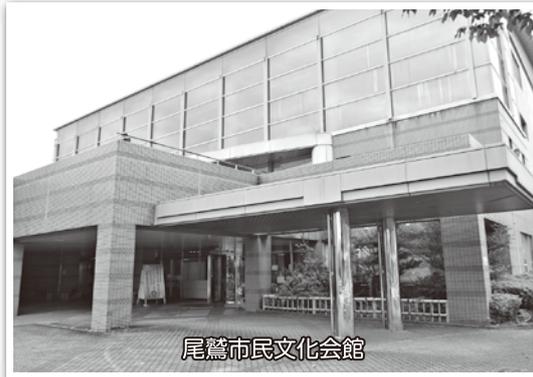


デザイン画最優秀賞決定！

大会メモリアル

尾鷲市民文化会館（せぎやまホール）2022.8.27

当日の大会会場



尾鷲市民文化会館

10:00 協力中学生・実行委員会が集合！



みんなで力を合わせて頑張ろう!!

10:15 運営協力中学生全員集合



今日一日、よろしくお願いします！

運営協力中学生による受付



中学生のコメント

大変だったところもありましたが、貴重な経験ができてよかったです。

運営協力中学生による案内



先生のコメント

緊張しながらも頑張っている生徒の姿を見ることができて嬉しかったです。

11:00 発表者が控室に集合しました！



緊張感の中、熱心に説明を聞いていました。

13:00 開会

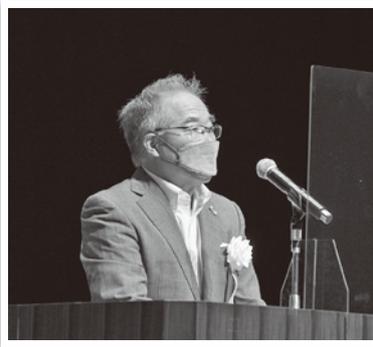
運営協力中学生による司会



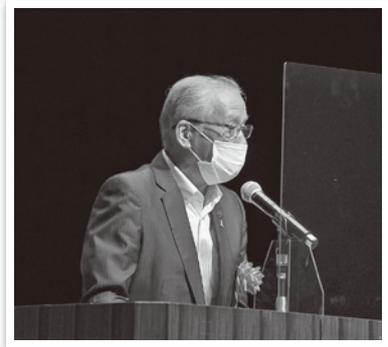
中学生の
コメント

みんなの前で話すのは緊張したけど、とてもいい機会でした。

主催者からの大会挨拶



尾鷲市長からの歓迎挨拶



13:20 いよいよ 14 人の主張発表が始まりました！！



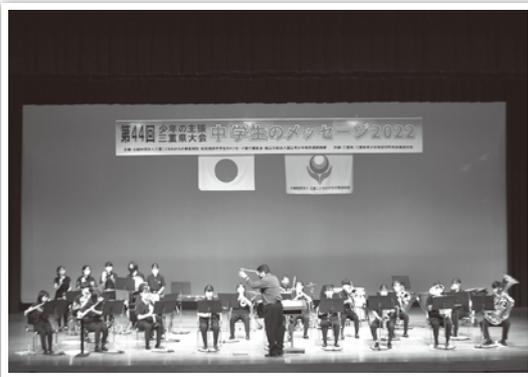
14:55 実践発表が始まりました！



太鼓演奏（紀北町立赤羽中学校）



ダンス発表（紀北町立紀北中学校ダンスチーム MP）



吹奏楽演奏（尾鷲市立尾鷲中学校吹奏楽部）

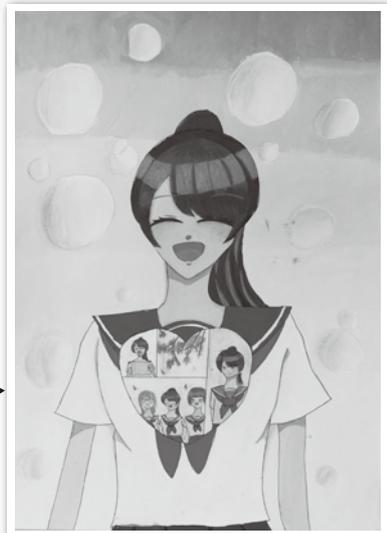
来場者のコメント

各校ともこの日のために一生懸命取り組んできた成果を十分発揮し、とても素敵な発表でした。

デザイン画最優秀賞

「思い出とともに」

紀北町立紀北中学校2年浅野薩貴さんの作品がプログラムの表紙を飾りました。



大人からの応援メッセージ展



三重県知事をはじめ、協賛企業・団体様から中学生へ向けて応援メッセージをいただきました。

デザイン画展

応募総数21点の中から選ばれた入賞作品4点+優秀作品10点を展示



厳正なる審査中



15:35 表彰式 おめでとうございます！



15:45 伊藤審査委員長による講評



16:00 運営協力中学生の皆さんへ



堀内実行委員長から感謝状の贈呈

受賞者のコメント

最優秀賞を受賞してとてもうれしいです。最優秀賞をめざして練習しましたが、その成果が出たのでよかったです。家族と喜びをわかちあいたいですが、特に今日見に来れなかった祖母にはすぐ伝えたいです。

(尾鷲市立尾鷲中学校 3年 北村 遥香さん)



16:15 閉会 記念写真



【司会・受付・案内・表彰アシスタント】
紀北町立潮南中学校・紀北町立三船中学校

【実践発表】

紀北町立赤羽中学校（太鼓演奏）
紀北町立紀北中学校ダンスチーム MP（ダンス発表）
尾鷲市立尾鷲中学校吹奏楽部（吹奏楽演奏）

【デザイン画最優秀賞】

紀北町立紀北中学校 2年 浅野 薩貴さん

【デザイン画協力中学校】

尾鷲市立尾鷲中学校・尾鷲市立輪内中学校
紀北町立紀北中学校・紀北町立赤羽中学校
紀北町立潮南中学校・紀北町立三船中学校

来年度は、桑員地区（いなべ市）で開催予定!!

中学生への応援メッセージ

中学生へ三重県知事、三重県議会議長、尾鷲市長、協賛企業・団体様からあたたかい応援メッセージをいただきました。

<p>自分らしさを大事に、 自信を持って前へ進め！</p> <p>三重県知事 一見 勝之</p>	<p>中学生 未来を決める 大切な時 ガンバレ！</p> <p>三重県議会議長 前野 和美</p>	<p>君たちは次代を担う宝 夢や希望にチャレンジし、 未来へ羽ばたけ！</p> <p>尾鷲市長 加藤 千速</p>	<p>かけがえのない「今」を 全力で楽しもう！</p> <p>株式会社 アーステックTAGAWA 代表取締役 田川 永都</p>
<p>努力をすれば 夢は必ず叶う</p> <p>伊賀ふるさと農業協同組合</p>	<p>よく学び、よく遊べ。</p> <p>イシブチ薬局 薬剤師 イシブチ ハリマオ</p>	<p>苦しい時でも、目は高く 希望を持って夢を追え</p> <p>イセット 株式会社 代表取締役社長 伊藤 尚貴</p>	<p>みなさんの 実りある未来を 応援します</p> <p>伊勢農業協同組合</p>
<p>Keep smiling ♪</p> <p>株式会社 伊藤工作所 代表取締役 伊藤 新</p>	<p>やればできる！</p> <p>上野電工 株式会社 代表取締役 山本 禎昭</p>	<p>全ての人に 好かれる必要はない 自分らしく進んで行こう</p> <p>株式会社 植村材木店</p>	<p>何事もあきらめず 前向きに進む事。</p> <p>植村電設 株式会社 代表取締役 植村 均</p>
<p>大切なのは チャレンジする気持ち！！</p> <p>有限会社 岡井博進堂 代表取締役 岡井 良樹</p>	<p>夢いっぱい、無限大！ 羽ばたけ、輝ける未来へ</p> <p>岡三証券 株式会社 津支店 支店長 尾崎 晋</p>	<p>時間は有限、 可能性は無限！ 「今」を大切にしよう。</p> <p>株式会社 小倉表具店 代表取締役 小倉 章生</p>	<p>想いを 行動に。</p> <p>尾鷲石川商工 株式会社 代表取締役 石川 浩</p>
<p>想うことから 言葉にすることへ 言葉から行動することへ</p> <p>おわせマルシェ オーナー 小倉 裕司</p>	<p>自分の夢を達成させるため 失敗を恐れず最後まで チャレンジ精神で頑張ろう！</p> <p>海洋ゴム 株式会社 代表取締役社長 西村 嘉一</p>	<p>夢と志を持ち続け 輝く 未来へ</p> <p>有限会社 カネタ産業 代表取締役 田中 靖敏</p>	<p>夢を持って！ 努力は必ず報われる。</p> <p>北村石油店 店主 北村 昭嗣</p>
<p>夢は実現する ガンバレ！！</p> <p>有限会社 北村木材店</p>	<p>一期一会</p> <p>株式会社 キハタトレーディング 代表取締役 喜畑 隆之</p>	<p>可能性は無限大！！ なんでも挑戦しよう！！</p> <p>紀北信用金庫</p>	<p>雲の上は いつも晴れ</p> <p>株式会社 ぎゅーとら 代表取締役社長 清水 秀隆</p>
<p>あなたの夢を大切に 自分を信じて一歩ずつ</p> <p>桑名三重信用金庫</p>	<p>Also challenge everything!</p> <p>グッディ(株式会社 玉城) 代表取締役社長 早川 賢</p>	<p>雨垂れ石を穿つ</p> <p>コスモスベリーズ 松阪店</p>	<p>夢を持とう！ 夢を持つと人生が豊かになる。 あなたの夢をサポートします！</p> <p>株式会社 三十三銀行</p>
<p>育てたい夢を 応援します！</p> <p>株式会社 紫宝創建 代表取締役 小倉 健司</p>	<p>好奇心を持って 何でもチャレンジ！</p> <p>森林組合おわせ 代表理事組合長 松永 忠興</p>	<p>人生の主役は自分 自分らしさを大切に！！</p> <p>JAバンク三重</p>	<p>仲間・出会い・経験は 自分だけの宝物</p> <p>医療法人 慈心会</p>

夢と希望に向かって
全力で！！

スポーツショップ ワールド

Let's cherish
this moment now

Seko food
CEO Morinobu Seko

自分の可能性を信じて
がんばれ!!

セレモニーホールせぎやま(株式会社 TK's)
代表取締役 野田 隆代

何事もチャレンジ！

株式会社 ぜにや
代表取締役社長 早川 賢

育てたい夢
応援します!!

多気郡農業協同組合
代表理事組合長 西井 正

友よ羽ばたけ大地をシッカリ踏み締めて
夢を持ち、希望を持ち
命を大切に、人を大切に！

竹輝銅庵 JSJT.CO.,LTD.
代表取締役 竹本 博志

一歩ずつ前進！！

株式会社 司
代表取締役 松村 垂矢子

努力は人を裏切らない
夢に向かって進め！

株式会社 寺下商店
代表取締役 寺下 宣良

一歩踏みだせ
まだ見ぬ明日へ

東海印刷 株式会社
代表取締役 服部 高明

失敗は成功の母
恐れずにチャレンジしよう

東邦液化ガス 株式会社

やりたいことを
全力で！

有限会社 トータルインテリアグチ
代表取締役社長 田口 秀明

周りへの感謝の気持ちを
忘れずに自分が選んだ
夢に向かって頑張れ!!

株式会社 ナカムラ尾鷲
代表取締役 中村 文俊

輝け 未来人

医療法人 西村整形外科

感謝の気持ちを
大切に

日本土木工業 株式会社
代表取締役 中野 周一

未来は変えられる。
一緒なら、きっと。

野村證券 株式会社 津支店
支店長 後藤 健太郎

日々努力！

株式会社 橋本組
代表取締役 橋本 考也

地平線の果てまで
見える目を持つなら
そこを目指せ！

万協製菓 株式会社
代表取締役社長 松浦 信男

過去と他人は変えられない、
でも未来と自分は
変えられる！

パイロットインキ 株式会社
津工場長 服部 哲也

You can do it !

有限会社 ひぐち文具店
取締役 樋口 富美子

同じ未来を一緒に
見つめていきましょう！

株式会社 百五銀行

他人とくらべない！
自分にまけない!!

有限会社 プラスサポート

この縁を大切に

保険企画サポート24

Do your best !!

株式会社 松阪電子計算センター
代表取締役 宮原 義隆

希望を胸に
前に進もう

有限会社 松本水道
取締役 松本 勉

成功の神は細部に宿る

みえ熊野古道商工会

夢を大切に!!

一般社団法人 みえ熊野古道JAPAN

上を向けば切りがない
下を向いても切りがない
ほんの少し周りをみつめて前へ進もう！

公益社団法人 三重県医師会

何にでもチャレンジ！
未来が開くその言葉

特定非営利活動法人
三重県歯科衛生士会

君たちは未来の宝
健やかに育て！

一般社団法人 三重県薬剤師会

一人ひとりの色で
未来を作ろう！

三重交通 株式会社

未来に向かって
大きくはばたけ

三重コニックス 株式会社
代表取締役 吉田 治伸

前へ前へ！ 進む勇気が
あなたを強くする

南建設 有限会社
代表取締役 南 国広

努力は裏切らない!!

有限会社 山室石油
代表取締役社長 山本 清

夢にむかって進め！
輝かせ未来！

理想科学工業 株式会社
三重営業所長 浦 雅裕

明るく
元気に
前向きに

株式会社 リンクフジカワ
代表取締役 藤川 立也

敬称略、五十音順

協賛企業・団体紹介

株式会社アーステック TAGAWA

 JAいがふるさと

石渕薬品合資会社



 JA伊勢

 株式会社 伊藤 工作所

上野電工株式会社

株式会社植村材木店

植村電設株式会社

 (有)岡井博進堂

 岡三証券
OKASAN SECURITIES

株式会社小倉表具店



尾鷲石川商工株式会社

ヒトヒト ヒトモノ
**OWASE
MARCHE**
おわせでつながる まあるいマルシェ

 海洋ゴム株式会社

有限会社カネタ産業

北村石油店

有限会社北村木材店

株式会社キハタレーディング

 紀北信用金庫

ふるあひ・たいせつに
 きゅう-とら

 桑名三重信用金庫

 グッデイ
GOODAY

 Berry's
コスモスペアーズ



三十三銀行

株式会社紫宝創建

森林組合おわせ

 JAバンク三重

医療法人慈心会

スポーツショップワールド

 Dream Ocean

セレモニーホールせぎやま

 食材
工房 zeniya



株式会社寺下商店



東邦液化ガス株式会社

有限会社トータルインテリアタグチ

株式会社 ナカムラ尾鷲

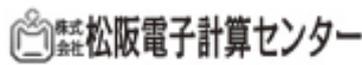
医療法人西村整形外科



BANKYO



株式会社 平野組

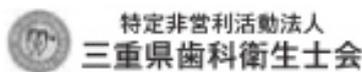


(有)松本水道

熊野市道商工会

紀北町パーキングエリア
始神 はじがみ テラス

(公社)三重県医師会



三重交通



南建設有限会社

(有)山室石油



株式会社リンクフジカワ

※五十音順

本大会の開催にあたり、ご協賛いただきありがとうございました。

参考資料 1

中学生のメッセージ2022 (第44回少年の主張三重県大会) 作文募集要項

1 目 的

「中学生のメッセージ」は、中学生が日頃感じていることや考えていることを広く県民に訴えることにより、青少年が自分の生き方や社会との関わりを考え、また、青少年に対する県民の理解・関心を深めることを目的として作文を募集します。

2 「中学生のメッセージ2022 (最終審査会)」開催期日・場所

期 日 令和4年8月27日(土)

場 所 尾鷲市民文化会館(せぎやまホール) 尾鷲市瀬木山町7-1

3 主 催

公益財団法人三重こどもわかもの育成財団・紀北地区中学生のメッセージ実行委員会
独立行政法人国立青少年教育振興機構

4 共 催

三重県・三重県青少年育成市町民会議連合会

5 協 力

三重県内青少年育成市町民会議

6 後 援

三重県教育委員会・尾鷲市教育委員会・紀北町教育委員会・三重県私学協会
三重県小中学校長会・三重県PTA連合会・三重県教職員組合・NHK津放送局
三重テレビ放送株式会社・株式会社中日新聞社

7 応募について

(1) 応募資格

県内の中学生及びそれに相応する学籍又は年齢にある方。

※国籍は問わないが、日本語で発表できること。また、令和3年度在籍の3年生は応募できません。

(2) 応募内容

① 社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案など

② 家庭、学校生活、社会(地域活動)及び身の回りや友だちとの関わりなど

③ テレビや新聞などで報道されている少年の問題行動、大人や社会の様々な出来事に対する意見や感想、提言など

(3) 応募方法

① 1人1点とし、未発表のものに限ります。但し、募集に先立ち取り組まれた作品や青少年育成市町民会議(以下、市町民会議という)等が主催する同様の大会において発表された作品は提出できません。

② 原稿用紙の記入方法は以下のとおりです。

ア. A4版400字詰め原稿用紙 [別添 (様式)] 3枚半以上4枚半以下で縦書きに清書してください。A4以外の原稿用紙や枚数不足、枚数超過については、審査対象外となります。

※大会での発表時間は4分半～5分半となります。

イ. 1行目に作文のタイトル、2行目に県名・学校名・学年、3行目に名前、4行目以降に本文を書いてください。但し、学校名等が長い場合はこの限りではありません。

ウ. 本人直筆による原本 (ワープロ不可・コピー不可・但し障がい等による場合は可) を提出してください。

エ. 原稿用紙にはHB以上の鉛筆ではっきり濃く記入してください。(審査のとき、コピーをするため判読不明な場合は審査できませんので、濃さについては厳守してください。)

オ. 原稿は、ホチキス止めをせずクリップ等で止めてください。

<p>※枚数厳守で お願いし ます</p> <p>4 枚 半 以 下</p> <p>～</p> <p>3 枚 半 以 上</p>	<p>～</p>	<p>4 行 目</p> <p>～</p> <p>本 文</p>	<p>3 行 目</p> <p>名</p> <p>前</p>	<p>2 行 目</p> <p>三 重 県</p> <p>○ ○ 立 ○ ○ 中 学 校</p> <p>○ 年</p>	<p>1 行 目</p> <p>タ イ ト ル</p>
--	----------	--	--	---	---

③ 応募作品一覧 (別紙1) には、作文の基調となっている最も適当なテーマ1つを下記より選び記入してください。

<p><u>基調テーマ分類</u></p> <p>「友達」、「家族」、「福祉・障がい」、「学校」、「勉強」、「生命」、「文化・伝統」、「地域・社会」、「環境」、「職業・労働」、「政治・経済」、「国際」、「平和」、「防災」、その他 ()</p>
--

④ 各学校等において3点以内に選考し、応募作品一覧 (別紙1) を添付のうえ、下記提出先に提出してください。

(4) 提出先・提出期限

- ・各中学校等は、令和4年6月3日 (金) までに当該地域の市町民会議等に提出してください。市町民会議等は作品を取りまとめ、6月8日 (水) までに公益財団法人三重こどもわかもの育成財団 (以下、育成財団という) へ提出してください。
- ・市町民会議等の連絡先については、別紙2を参照してください。

(5) 審査基準

・論旨は以下のとおりです。

- ① 鋭い感性で、新鮮な主張であるか。(中学生らしさ)
- ② 新しい情報や視点があるか。
- ③ 個人の体験にとどまらず、一般性・社会性があるか。
- ④ 提案や提言を実現・実践する意欲が感じられるか。
- ⑤ 論旨が一貫し、構成がしっかりしているか。

(6) 入賞の選考

① 第1次審査会

第1次審査は育成財団にて行い、提出された作品の中から40人程度を選考します。

② 第2次審査会

第2次審査は学識経験者、青少年育成関係者、育成財団等で構成する第2次審査会において行い、最終審査会で発表する14人を選考します。14人へは7月上旬頃に連絡します。決定後、やむをえず出場できなくなった場合は、次点の方を繰り上げる場合もあります。なお、14人以外の作品には地域優秀賞とします。

8 中学生のメッセージ2022 (最終審査会) について

(1) 発表

・第2次審査会で選ばれた14人は「中学生のメッセージ2022」において、発表します。なお、発表では、パフォーマンス(写真を使用したパネル説明や小道具を使用する等)を取り入れてもかまいません。その場合は、準備の関係がありますので、詳しくはお問い合わせください。

(2) 審査

・大会当日、学識経験者、教育関係者、報道関係者、青少年育成関係者、育成財団等で構成する最終審査会で審査を行い、各賞を決定します。

(3) 審査基準

・論旨は第1次審査会と第2次審査会と同じです。
・論調・態度は以下のとおりです。

- ① 共感と感銘を与えていたか。
- ② 説得力のある話だったか。
- ③ 熱意と迫力があつたか。
- ④ 落ち着いて話していたか。
- ⑤ 聴衆に感動を与えていたか。

(4) 表彰

- ① 「最優秀賞」(1人)、「優秀賞」(3人)、「優良賞」(10人)を決定し、賞状と副賞を贈呈します。
- ② 「地域優秀賞」には、賞状と副賞を贈呈します。
- ③ 積極的に応募に取り組んでいただいた学校(全校生徒の50%以上とする)に「学校奨励賞」として、賞状と副賞を贈呈します。
- ④ 作品応募者全員に参加賞を贈呈します。

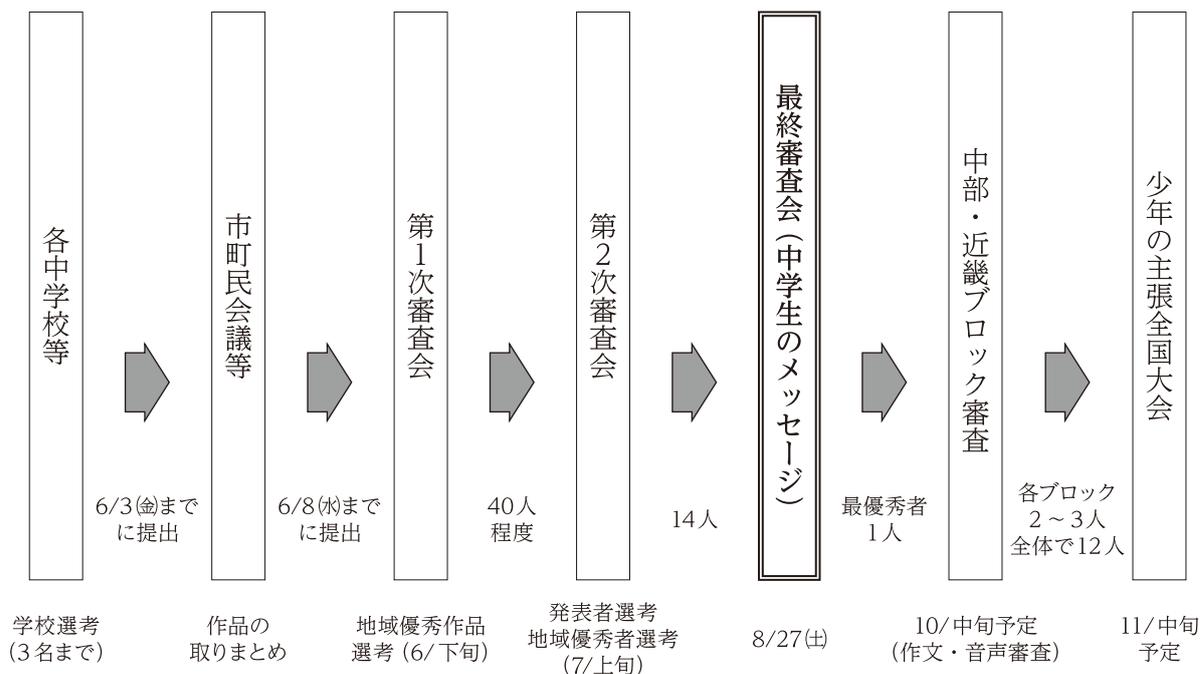
9 「少年の主張全国大会」への推薦

独立行政法人国立青少年教育振興機構が主催する「少年の主張全国大会」の出場候補者として最優秀者を推薦します。中部・近畿ブロック審査(作文・音声審査)でブロック代表者(各ブロック2～3人)に選ばれた場合は、11月中旬に東京都で開催される「少年の主張全国大会」において発表します。

10 その他

- (1) 応募作品の返却はしないのでコピーをして保管してください。
- (2) 「中学生のメッセージ2022」開催前、育成財団ホームページにおいて、発表者の紹介(学校名・学年・名前・タイトル)をしますのでご了承ください。また、「中学生のメッセージ2022」後、結果を発表します。最優秀賞については、作品を掲載します。
- (3) 令和5年1月頃発表報告集を作成します。その中で掲載した作品及び写真については、ホームページ、広報誌等にも掲載することがありますのでご了承ください。

11 参考：応募から発表までの流れ



問い合わせ先

公益財団法人三重こどもわかもの育成財団
〒515-0054 松阪市立野町1291 中部台運動公園内
TEL: 0598-23-7735 FAX: 0598-23-7792
E-mail: ikusei@mie-cc.or.jp

あなたの声、心に届け

山梨県 北杜市立甲陵中学校 3年

前橋 真子

「真子ちゃん、きょうだいいるの?」「妹と弟がいるよ。」「妹かぁ。羨ましい。」「羨ましいなんて……。私は妹の存在を口に出すのをためらうことがあった。

私の妹は生まれつき音が聞こえない重度難聴だ。左耳に音を増幅させる補聴器、右耳に脳に音の信号を送る人工内耳を付けている。発音も上手ではない。私が小学生のとき「妹、障がい者なのに元気だね。」と友達に言われた。なんとも言い表せないモヤモヤが私の心に渦巻いた。障がいのある妹が明るく元気なのは普通のことではないと思い、恥ずかしさを覚えた。そしていつの間にか妹のことを口にするのも、一緒に出掛けるのも辛くなった。

この春中学校入学を控えた妹は、補聴器を新調した。私も一緒に店に行った。そこには色とりどりの補聴器が並んでいた。お店の方は、好きな色を選ぶよう言った。私は「真紀ちゃん、黒か茶色を選んだら?」と勧めた。強く勧めた。黒か茶色なら髪の毛と同調して、あまり目立たない。みんなと変わらない見た目でいられる。恥ずかしい思いをしなくてすむように、何度も言った。しかしそんな私を見て妹は言ったのだ。「誰になんと思われても、これは私の耳なの。私は黄色い補聴器の私を見てもらいたい。」妹に言われてハッとした。障がいにこだわっていたのは私自身だったのだ。

聴覚障がいのある妹が、明るく元気なのはおかしいのか。いや、妹は妹だ。妹が笑顔を絶やさないのは、今まで本当に沢山の努力をしてきたからだ。私と同じ小学校に行くために、人工内耳の手術を受け、手話が無くても友達と話せるように病院やろう学校に通って、発音練習を頑張っていた。誰にでも優しいのは、自分がされて嫌だったことや辛かったことを痛いほど知っているからだ。私は、今まで辛くて、悔しくて泣く妹を何度も見た。でもその度に努力してハンディキャップを乗り越えていた。そんな妹の努力を一番近くで見て知っているのは私だ。障がい者というフィルタを通さず、ありのままの妹を見て欲しい。手話や口話、筆談、テレビの字幕も全部、社会と繋がるコミュニケーションツールの一部だ。それが妹の全てではない。

聴覚障がい者は、一度見ただけでは耳が不自由かわからず、接し方に戸惑うことがある。でも耳の不自由な人がみんな、相手に手話を望んでいるわけではない。聴覚障がい者が困っているときは、その人の正面から「何か手伝えることはありますか。」と口を大きく開け、ゆっくり話しかけてほしい。

「思いやりのある言葉は、たとえ簡単な言葉でも、ずっとずっとこだまする。」これは貧困や病に苦しむ人の救済に生涯を捧げた、マザーテレサの言葉だ。心のバリアフリーの精神を表している。まずは聞こえないことについて知ろうしてほしい。その思いやりでどれだけ救われる人がいることだろう。

妹は毎日黄色い補聴器をつけ、お気に入りのテニスラケットを持ち元気に登校している。先日友達に「妹さん明るくて、部活のムードメーカーで、頑張っているよ。」と言われた。ありのままの妹を見てくれていると分かり心が温かくなった。そんな妹は私の誇りだ。

私たちにできることには限りがあるかもしれない。それでもあなたの身近にハンディキャップを持つ人がいたなら、そのハンディというフィルタ越しではなく、その人自身や心に寄り添ってほしい。障がいのある人への理解が進むことで、一人またひとりと笑顔が増えていくと確信している。

妹の耳に、あなたの声は聞こえないかもしれない。でも、あなたの気持ちは妹の心に確実に、届いている。



中学生のメッセージ2022
(第44回少年の主張三重県大会)

発表報告集
令和5年1月

公益財団法人 三重子どもわかもの育成財団
〒515-0054
三重県松阪市立野町1291 中部台運動公園内
TEL 0598-23-7735
FAX 0598-23-7792
E-mail ikusei@mie-cc.or.jp

中学生のメッセージ2022 デザイン画入賞作品介绍

地元紀北地区の中学生を対象にデザイン画を募集し、デザイン画入賞作品展を開催しました。



デザイン画優秀賞：「努力の結果」
尾鷲市立尾鷲中学校 2年 橋爪 綾那さん



大会当日の展示の様子



入賞作品



デザイン画優秀賞：「思いよ届け」
尾鷲市立尾鷲中学校 2年 山邊 夏姫さん



デザイン画優秀賞：「本を読むと見える道」
紀北町立紀北中学校 3年 南 春花さん